# 大規模開発事業地内遺跡

―遺跡詳細分布調査　３－

平成１５年３月

長野県教育委員会

# はじめに

本県は、古来より豊かな自然に抱かれ、それによる多種多様な食糧資源を入手することが可能で、人々が住むのに適した地でありました。県内で確認されました旧石器時代から近世までの遺跡は1万4千か所以上にのぼります。この数字はまさに本県が生活好適地であったことを物語るものであり、自然環境に支えられ、時には改良して生活を営んできた祖先の歴史の一断片でもあります。

現在、県内では、高速道路建設や、ほ場整備事業をはじめとした農業基盤整備事業等が計画されています。これらの事業地内にも数多くの遺跡が存在する可能性がありますが、遺跡の有無や内容等については充分把握されていないのが現状です。

埋蔵文化財保護と開発事業を円滑に進めるためには、開発の事前に遺跡の所在地・性格、範囲等をより詳細に把握しておくことが必要であります。

本報告書は、平成12年度から14年度に国庫補助金を受けて実施した、県内の大規模開発事業が予定されている地域内の、埋蔵文化財詳細分布調査結果をまとめたものです。遺跡の発掘調査・保護等に資することになれば幸いに存じます。

調査の実施及び報告書の作成にあたり、関係各位の御協力と御指導を賜りましたことに対し、心から感謝申し上げます。

平成15年3月31日

長野県教育委員会
教育長 **瀬 良 和 征**

# 例　　言

1　本報告書は、平成１２～１４年度にかけて長野県教育委員会が実施した、高規格道路建設が計画されている事業地内の遺跡詳細分布調査の報告書である。

2　調査は、国庫補助事業として事業総額5,545,959円で実施し、その内訳は次のとおりである。

単位　円

| 年　　度 | 国庫補助額 | 県負担額 | 合　　計 |
|---|---|---|---|
| 平成12年度 | 1,034,000 | 1,036,076 | 2,070,076 |
| 平成13年度 | 861,000 | 861,883 | 1,722,883 |
| 平成14年度 | 876,000 | 877,000 | 1,753,000 |
| 合　　計 | 2,771,000 | 2,774,959 | 5,545,959 |

3　本報告書は、長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課埋蔵文化財係が分担執筆・編集した。

4　本調査及び報告書の作成にあたっては、下記の機関に御協力を願った。記して、謝意を表する。
飯田市教育委員会　　小諸市教育委員会　　佐久市教育委員会　　小海町教育委員会
川上村教育委員会　　南牧村教育委員会　　八千穂村教育委員会　　阿智村教育委員会
国土交通省中部地方整備局飯田国道工事事務所　日本道路公団東京建設局佐久工事事務所
長野県佐久高速道事務所　財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター

# 目　　次

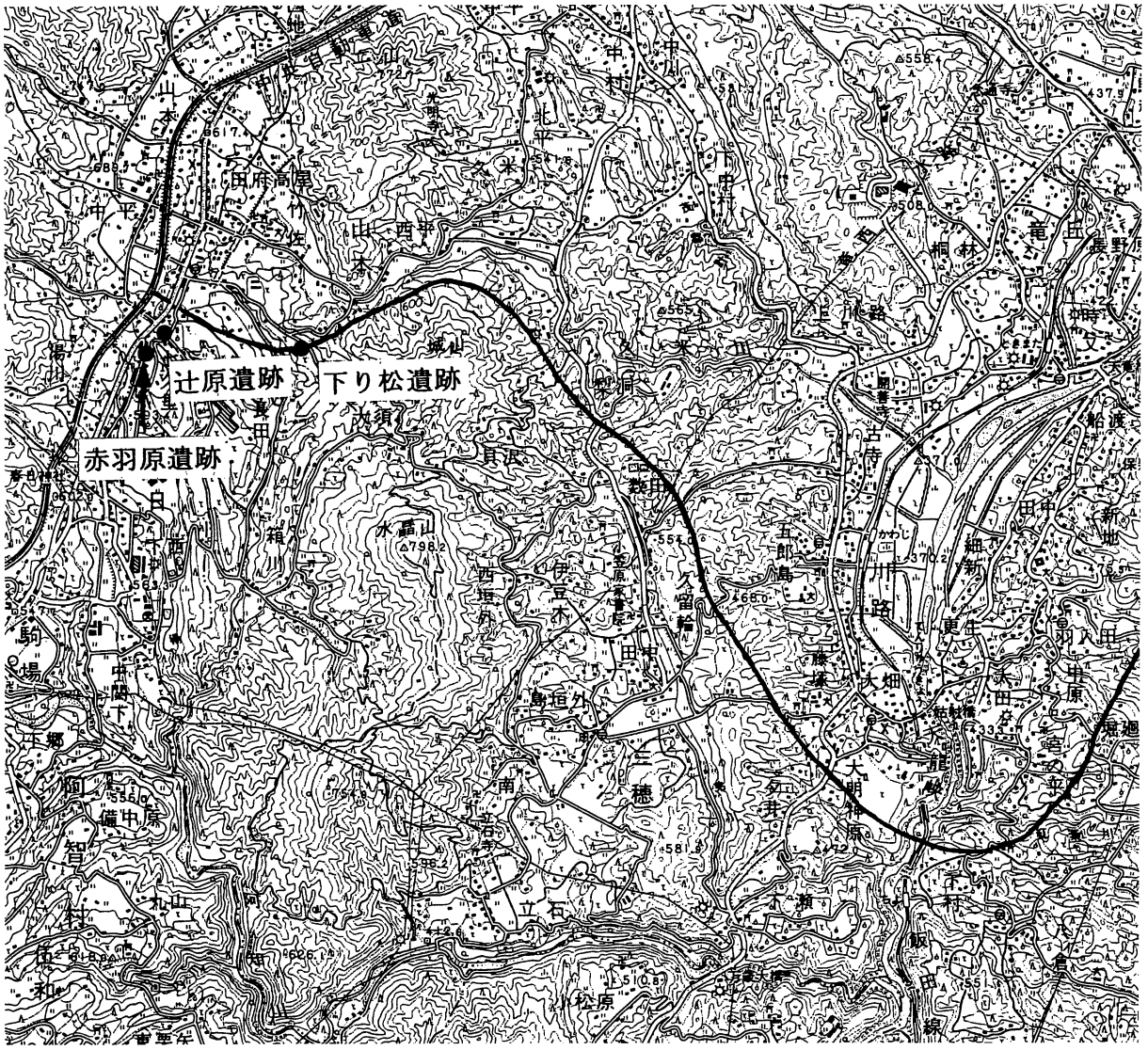
はじめに
例　　言
目　　次
**Ⅰ　三遠南信自動車道予定地内の調査**
1　概要 …… 1
2　調査の目的 …… 2
3　調査組織 …… 2
4　調査概要 …… 2
(1)　飯田市下り松遺跡 …… 2
(2)　飯田市赤羽原遺跡 …… 3
(3)　飯田市辻原遺跡及び隣接地（阿智村） …… 4
**Ⅱ　中部横断自動車道予定地内の調査**
1　概要 …… 6
2　調査の目的 …… 6
3　調査組織 …… 6
4　調査概要 …… 6
(1)　現地踏査 …… 6
(2)　試掘調査 …… 14
おわりに
写真図版
報告書抄録

# Ⅰ　三遠南信自動車道建設予定地内の分布調査

## 1　概　　要

三遠南信自動車道は、長野県飯田市の中央自動車道を起点とし、静岡県引佐郡三ヶ日町の東名自動車道に至る延長約１００㎞の自動車専用道路である。長野県内約４９㎞の内、一部は供用が開始されているが、全体の整備はこれからである。今回対象とした中央自動車道西宮線から（仮）飯田南ＪＣＴで分岐し喬木ＩＣまでの間は、飯喬道路と呼ばれ、平成元年に基本計画、平成９年２月２５日に整備計画決定となり、平成９年度から建設省中部建設局飯田国道工事事務所が用地取得を開始した。また、平成１１年には、（仮）飯田南ＩＣへのアクセス道路となる国道１５３号バイパスの設計協議がなされ、設計が確定した。

県教育委員会は、基本計画決定を受けて、平成６年度に飯田市内の遺跡を確認するため、（仮）飯田南ＪＣＴから（仮）飯田東ＩＣの踏査を実施し、遺跡の位置の確認を実施した。しかし、事業予定地は森林や今まで開発が及ばない場所が多く、（仮）飯田南ＪＣＴ部分の旧石器時代の遺跡として著名な石子原遺跡以外は、遺跡の範囲や内容がはっきりせず、試掘調査が必要と判断された。




第１図　三遠南信自動車道建設予定路線と調査遺跡（１：50,000）

なお、試掘調査の結果、遺跡の範囲等が確定した遺跡については、長野県埋蔵文化財センターが平成１１年度より本調査を開始している。

## 2　調査の目的

踏査によって試掘調査が必要とされた遺跡の試掘調査を実施し、遺跡の有無や内容、範囲を確認し、今後の道路建設と埋蔵文化財の保護の調整資料を得る。

## 3　調査組織

**調査主体**　長野県教育委員会　　**調査指導**　長野県遺跡調査指導委員会

**調査協力**　飯田市教育委員会　　長野県埋蔵文化財センター

建設省（現国土交通省）中部地方建設局飯田国道工事事務所

## 4　調査概要

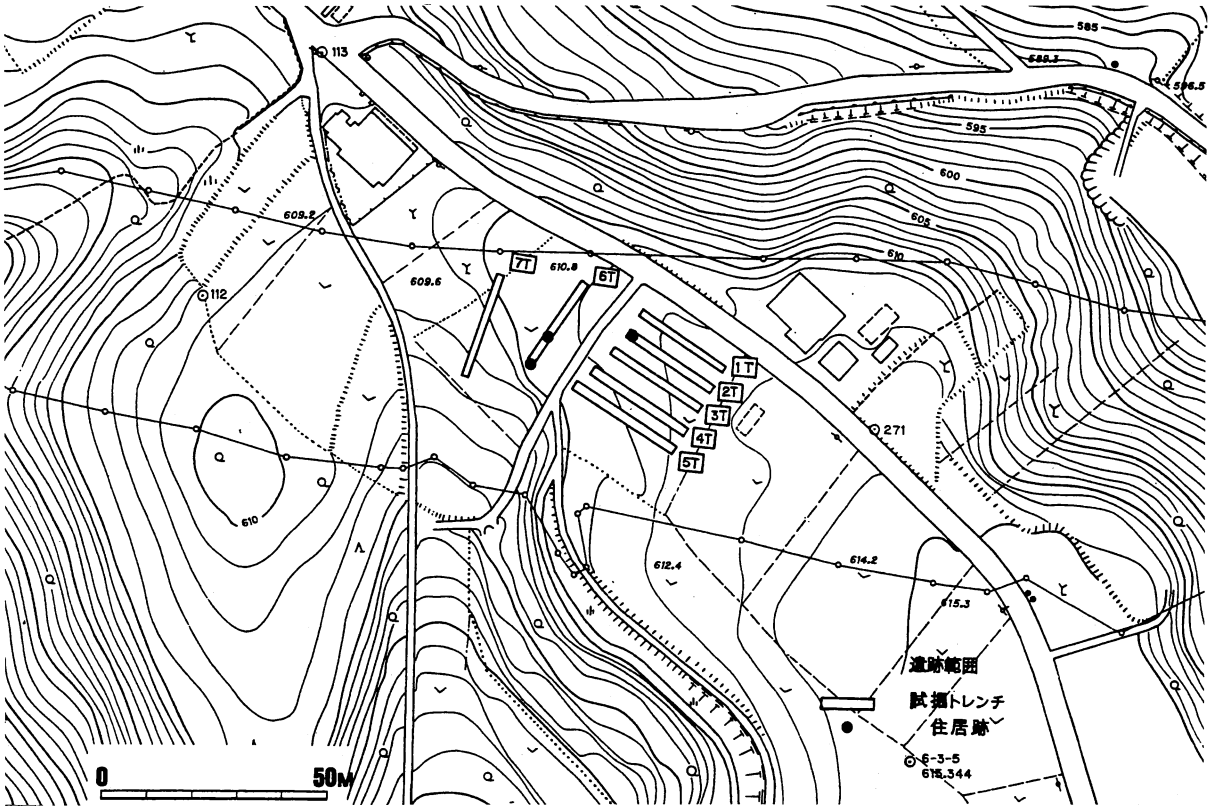
### (1)　下り松遺跡

#### ア　遺跡の概要

遺跡は、縄文時代中期の遺跡として登録され、北側と南西側を谷に刻まれた狭い尾根状の平坦地に位置する。調査対象地は、三遠南信自動車本線建設予定地内で、西側に向かい緩く傾斜し、中ほどに南東からの谷が入り込む。標高は６１０ｍ前後。

#### イ　調査方法

重機（バックホー）を用いてトレンチを掘削し、手作業で精査し、遺物の採集、遺構を検出し、遺跡の内容を確認する。




第２図　飯田市下り松遺跡

**ウ　調査期間**

平成１３年１月１１日(木)～１２日(金)

**エ　調査内容**

今回の試掘調査では、７本の試掘トレンチ中２本で、計３箇所の住居跡を確認することができた。住居跡は、いずれも床面ギリギリまで耕作が及んでおり、硬化した床面がローム層直上で確認された。標準となる層序についても、２０～４０㎝程度の耕作土の下は黄褐色ローム層となっており、遺物包含層が耕作により撹乱、ないしは削平されていることが理解される。遺物は、弥生時代と考えられる土器の細片が少量発見されたのみである。今回確認された住居跡の時期については、出土遺物及び当地域の調査事例からみて、縄文時代の所産と考えられる。

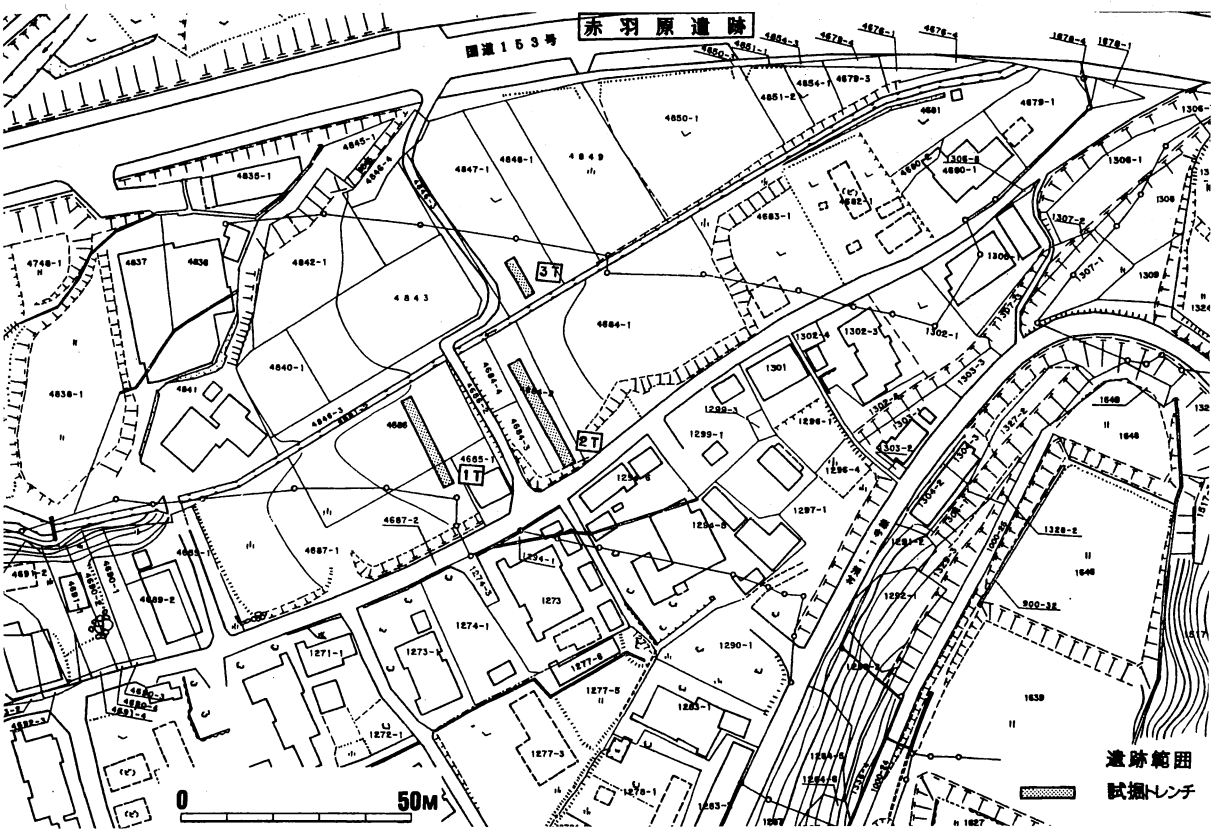
**オ　今後の保護措置について**

試掘調査の結果、本遺跡では住居跡が確認され、事業予定地約7,０００㎡について本調査を必要とする。三遠南信自動車道建設に伴う発掘調査は長野県埋蔵文化財センターが実施してきており、下り松遺跡の発掘調査についても事業者との調整の上、長野県埋蔵文化財センターが調査を実施する予定である。

**(2)　赤羽原遺跡**

**ア　遺跡の概要**

遺跡は、縄文時代中期の遺跡として登録され、西側の山地から南へのびる緩やかな尾根上に位置する。今回の試掘対象範囲は、(仮) 飯田南ＩＣへのアクセス道路となる国道１５３号バイパス建設予定地内に相当する部分である。調査地点は前述の尾根の先端部にあたり標高６０５m前後である。地元からの聞き取りによると、調査地点はもともと谷地形となっていたものを大きく埋め戻したとのことである。




第３図　飯田市赤羽原遺跡

**イ　調査方法**

重機（バックホー）を用いてトレンチを掘削し、手作業で精査し、遺物の採集、遺構の検出をし、遺跡の内容を確認する。

**ウ　調査期間**

平成１３年1月１０日㈬～１１日㈭

**エ　調査内容**

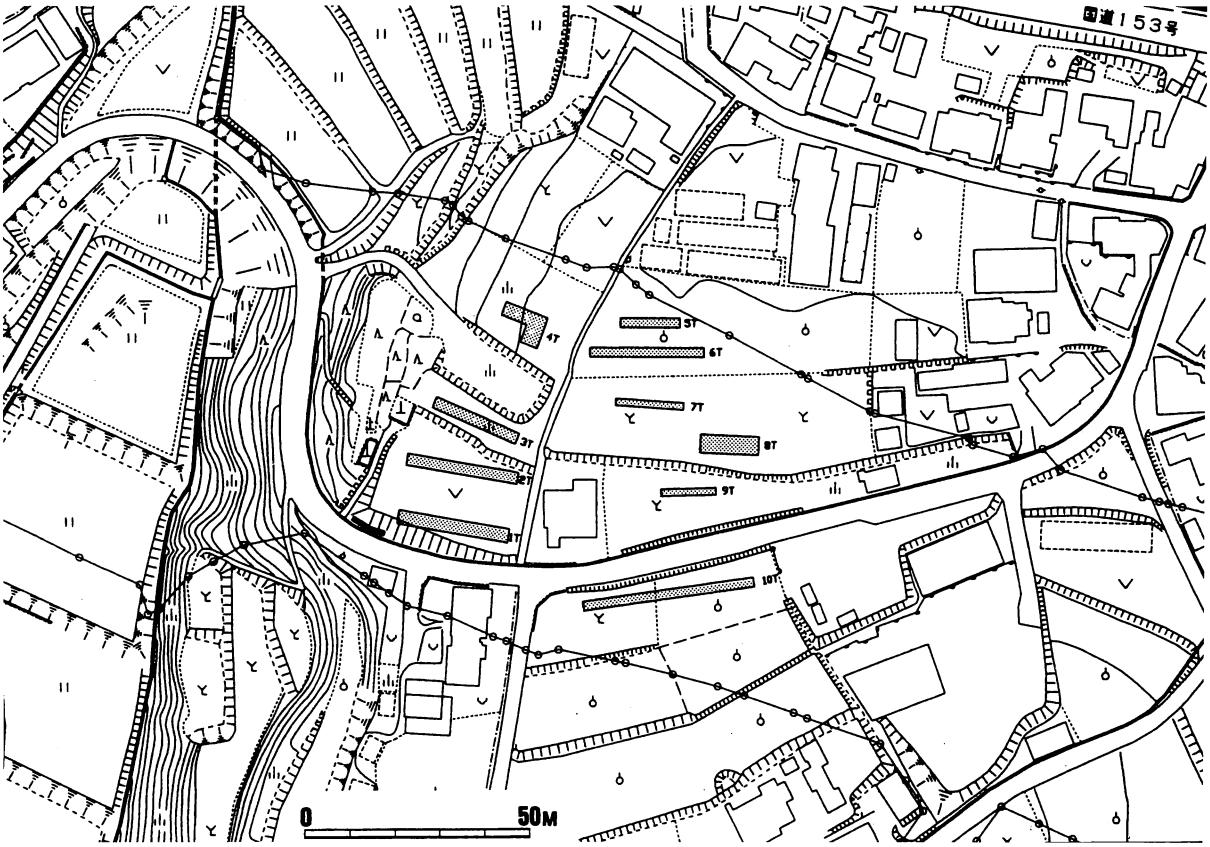
今回の試掘調査では遺構・遺物の検出は見られなかった。標準となる層序は、２０～３０㎝程度の耕土の下は礫混じりの黄褐色土となる。この黄褐色土は、埋め戻された土層である。

したがって、聞き取り調査で得られた情報どおり、調査地点は谷地形を埋め戻して平坦部とした事が確認され、本調査の必要はないと判断する。本来の遺跡範囲は、調査地点北側の尾根部と想定される。

**⑶　辻原遺跡及び隣接地**

**ア　遺跡の概要**

遺跡は、縄文時代中期の遺跡として登録され、西側の山地から南へのびる尾根上に立地する。今回の試掘対象範囲は、（仮）飯田南ＩＣへのアクセス道路となる国道１５３号バイパス建設予定地内に相当する部分である。調査地点は前述の尾根の南端部にあたり標高６１５m前後である。地元からの聞き取りによると、調査地点より５０～６０m程度東側の遺跡東端部付近で過去に土器や石器が出土したことはあるが、調査地点付近では遺物が採集されたことはないとのことである。なお、調査地西側と南東側は谷地形となっている。




第４図　飯田市辻原遺跡

**イ　調査方法**

重機（バックホー）を用いてトレンチを掘削し、手作業で精査し、遺物の採集、遺構の検出をし、遺跡の内容を確認する。

**ウ　調査期間**

平成１３年６月４日(月)～６日(水)

**エ　調査内容**

今回の試掘調査では遺構・遺物の検出は見られなかった。標準となる層序は、２０～３０㎝程度の耕土の下は黄褐色ローム層で、黄褐色ローム層の最上部がやや赤味をおびる部分が確認されている。

周辺に所在する石子原遺跡で旧石器時代の遺物が発見されているため、ローム層中の遺物の有無も確認したが、遺物等は発見されなかった。したがって、本事業地にかかる範囲については、本調査の必要はないと判断する。

# Ⅱ　中部横断自動車道建設予定地内の分布調査

## 1　概　　要

長野県佐久市と静岡県清水市を結ぶ中部横断自動車道は、平成3年12月20日に佐久市～八千穂村間、平成9年2月5日に八千穂村～山梨県長坂町間が基本計画決定、平成8年12月27日に小諸・佐久市内（上信越自動車道分岐（仮）佐久ＪＣＴ～（仮）佐久南ＩＣ)、平成10年12月25日に佐久市内から八千穂村（(仮）佐久南ＩＣ～（仮）八千穂ＩＣ）が整備計画決定、(仮）佐久ＪＣＴ～（仮）佐久南ＩＣに建設大臣から施行命令が出された。なお、山梨県内では、中央自動車道分岐双葉ＪＣＴ～白根ＩＣ間の延長6.8㎞が平成14年3月30日に開通している。

長野県教育委員会は、平成3年の基本計画決定を受けて、平成6年度に佐久市から八千穂村間の予想されるルートの幅1㎞前後を踏査し、遺跡の位置等の確認を実施した。その後、（仮）佐久ＪＣＴ～（仮）八千穂ＩＣのルートがほぼ確定したことにより、その間の分布調査を平成10・11年度に実施した。今回は、平成12～14年度に実施した（仮）佐久ＪＣＴ及び（仮）佐久南ＩＣ周辺の試掘調査と（仮）　佐久南ＩＣ～山梨県境間の現地踏査結果を報告する。

## 2　調査の目的

現地踏査を中心とした詳細分布調査を実施することで、遺跡の有無及び範囲等を把握する。その上で、踏査によって試掘調査が必要とされた遺跡については試掘調査を実施し、遺跡の有無や内容、範囲等を確認し、今後の道路建設と埋蔵文化財の保護の調整資料を得る。

## 3　調査組織

**調査主体**　長野県教育委員会　　**調査指導**　長野県遺跡調査指導委員会

**調査協力**　小諸市教育委員会　佐久市教育委員会　臼田町教育員会　小海町教育委員会
佐久町教育委員会　八千穂村教育委員会　南牧村教育委員会　川上村教育委員会
日本道路公団東京建設局佐久工事事務所　長野県埋蔵文化財センター
長野県佐久高速道事務所

## 4　調査概要

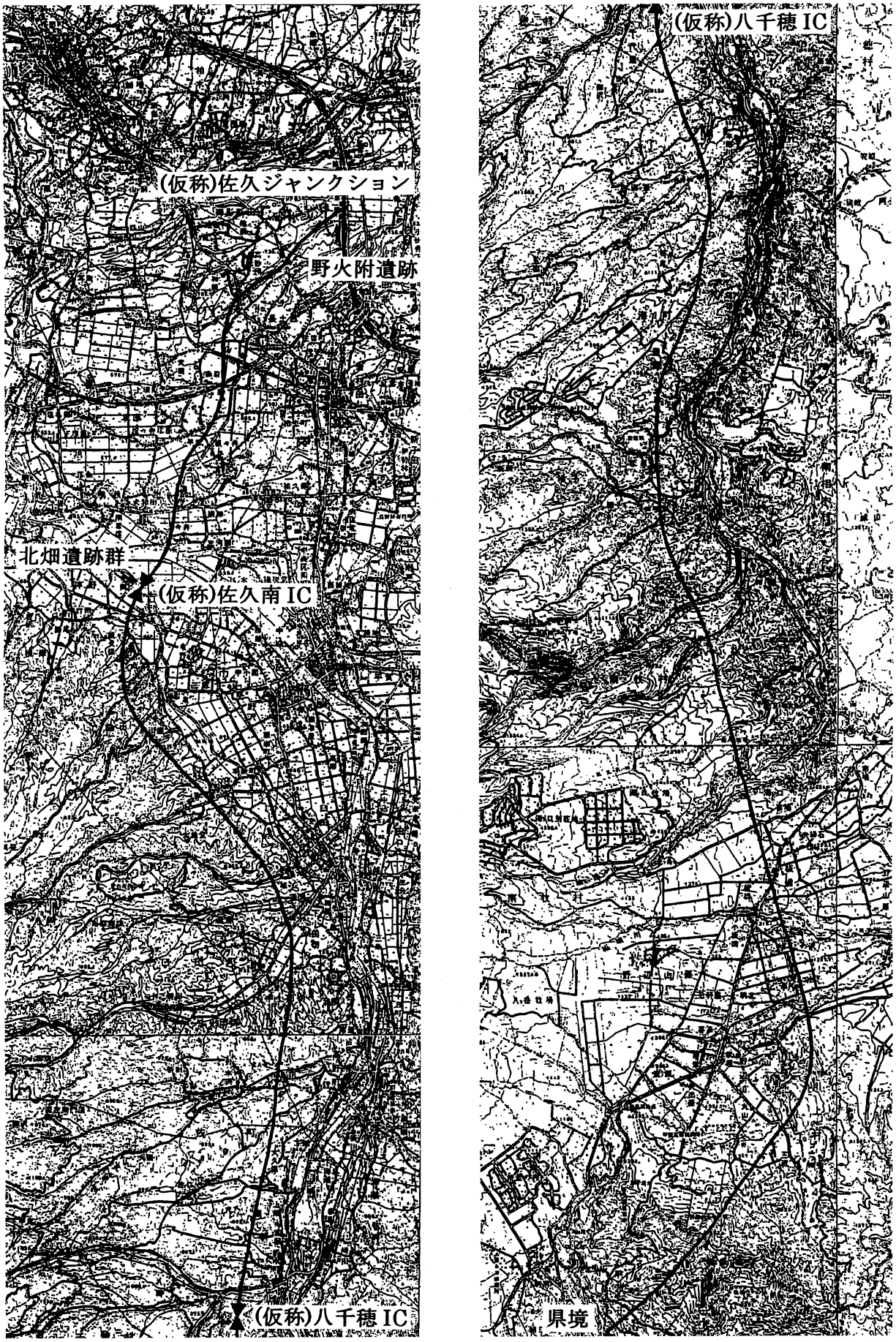
### (1)　現地踏査

#### ア　調査の概要

従来より周知されていた遺跡の範囲を確認するとともに、地形観察や遺物採集を実施し、遺跡の可能性がある地点をさがし、今後の調整の基本資料を得るため、現地踏査を実施。踏査の対象範囲は、平成12年度は（仮）佐久南ＩＣ～（仮）八千穂ＩＣまでの約15㎞の内、平成10年度に分布調査を実施できなかった範囲とし、平成13年度は（仮）八千穂ＩＣ～山梨県境までの27㎞について踏査を実施。(仮）八千穂ＩＣ以南については、路線が予定される地域を幅1㎞の範囲で踏査した。

#### イ　調査期間

平成13年　2月　1日(木)～　2日(金)　　(仮）佐久南ＩＣ～（仮）八千穂ＩＣ
平成13年11月27日(火)～30日(金)　　(仮）八千穂ＩＣ～山梨県境




第５図　中部横断自動車道建設予定路線（１：100,000）

## ウ　調査結果

### ㈠　平成１２年度の調査

#### 佐久市内

西東山遺跡～東山遺跡（第６図２２）

当該地は、西東山遺跡と東山遺跡にはさまれた、緩やかな東向きの斜面地で、地形的には両遺跡と連続している。そのため、両遺跡が拡大する可能性が考えられ、遺跡の有無を確認するための試掘調査が必要である。

小山の神Ｂ遺跡～高尾Ａ遺跡（第６図２６）

小山の神Ｂ遺跡に連続する南側の平坦地は遺跡が拡大している可能性があり、試掘調査が必要である。北東にのびる細い尾根については、尾根先端部に前山城が築かれ、城西側を画する堀切は尾根頂部から続く東斜面に設けられているが、事業地はこの尾根頂部の反対側となり前山城の範囲からはずれるものと考えられる。ただし、堀などの城施設が広がっている可能性も考えられるので、伐木後に再度確認する必要がある。

また、前山城から高尾Ａ遺跡間の谷部分及び斜面部については山城に関連する施設なども確認できないので保護措置不要。

高尾Ａ遺跡～尾垂遺跡（第６図２８）

東にのびる尾根斜面と谷部平坦地からなる。高尾Ａ遺跡範囲南側の谷部平坦地は遺跡が拡大している可能性が考えられ、遺跡の有無確認の試掘調査が必要。尾垂遺跡との間の斜面部は保護措置不要。

#### 臼田町内

秋葉神社（第６図３９）

尾根先端の頂きに直径２０ｍ、高さ２ｍほどの塚が築かれていて、発掘調査が必要。また、塚につながる緩やかな南向き斜面については遺跡の有無を確認するための試掘調査が必要である。

泉竜寺東側尾根（第６図Ａ）

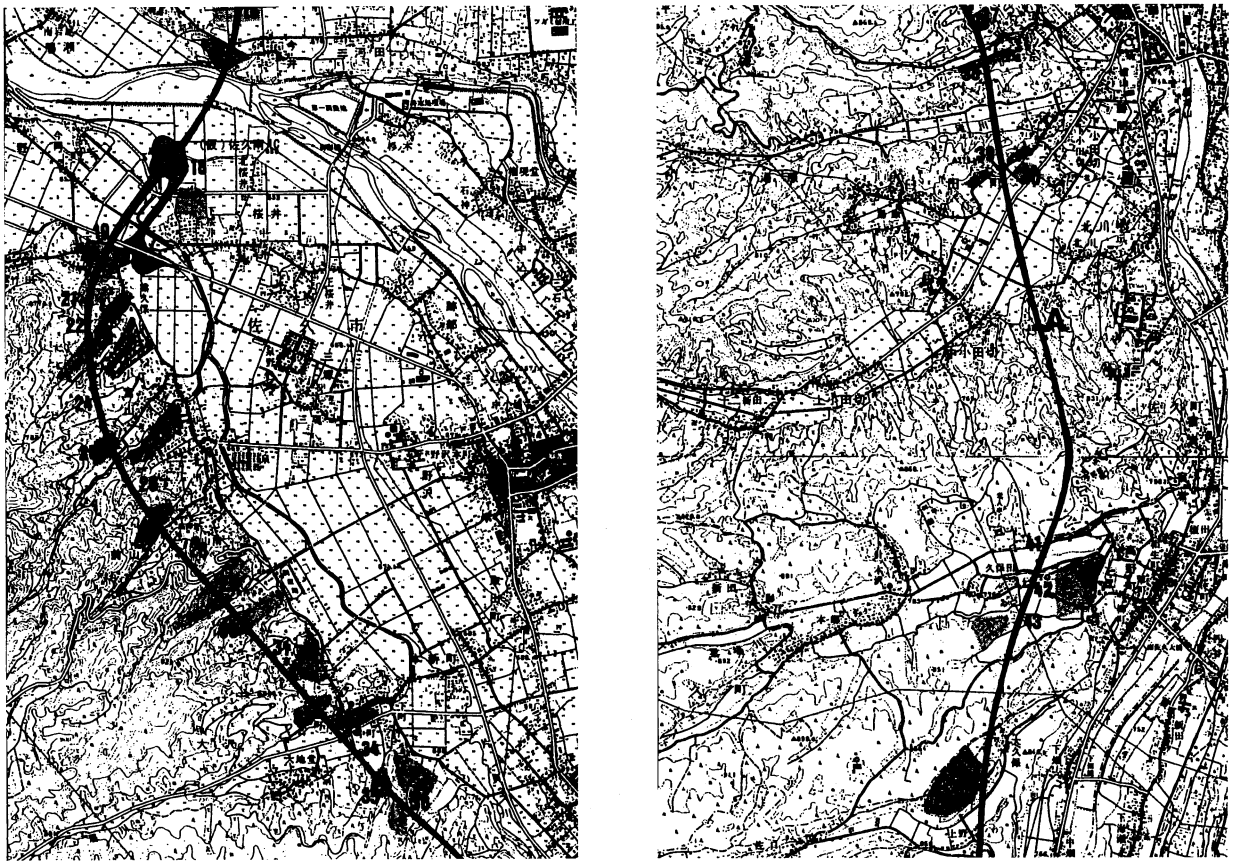
当初計画はトンネル工法の予定であったが開削工事計画に変更されたため、現地を確認。尾根の東側山裾に縄文・平安時代の遺物が採集されている田島久保遺跡がある。また、一つ西側の尾根の先端部には中世の雁峰城が築かれ、その尾根裾には縄文・古墳・平安時代の遺物が採取されている城影遺跡が存在する。

事業地は尾根の頂部を縦断するように通過し、用地内に城跡などの施設も見られず、平坦部も認められず、保護措置は不要。

#### 八千穂村内

上野月夜原遺跡（第６図４４）

遺跡は南側から東側を崖線で画された台地上に広がり、過去に多くの縄文時代や古代の遺物が採集されている。事業地は台地縁辺部を通過しており、遺跡の内容を把握するための試掘調査が必要である。また、遺跡範囲から外れる台地北東部についても地形的に連続しており、遺跡が拡大する可能性が考えられ、遺跡の有無を確認する試掘調査が必要である。



第６図　平成12年度踏査地区（１：50,000）

(イ)　平成１３年度の調査

**八千穂村内**

（仮称）八千穂ＩＣ予定地に中原遺跡が所在する。ＩＣ予定地から小海町までの間は山間部となっており、遺跡は所在しないと考えられる。また、山城等の所在も確認されていない。

**小海町内**

馬越峠下遺跡をはじめ２６ヶ所の遺跡を確認した。八ヶ岳山麓の台地上や山麓部に遺跡は所在する。中原遺跡では農業基盤整備事業に伴い発掘調査が実施され、縄文時代の集落や多くの土器などが出土している。それ以外の遺跡はほとんど調査歴がなく、遺跡の詳細については明らかでないが、縄文時代や平安時代の遺物が採集されている。遺跡の現状は水田、畑が多いが、山林化し遺跡の詳細な位置が明らかでないものも存在する。

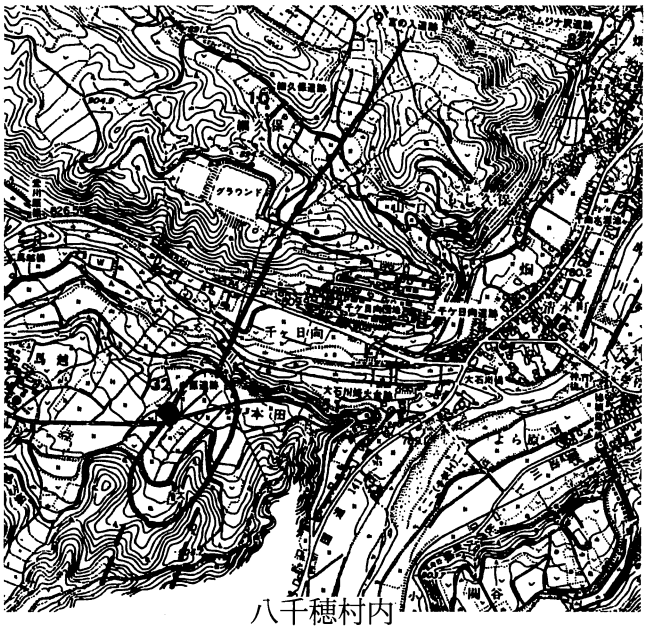
**南牧村内**

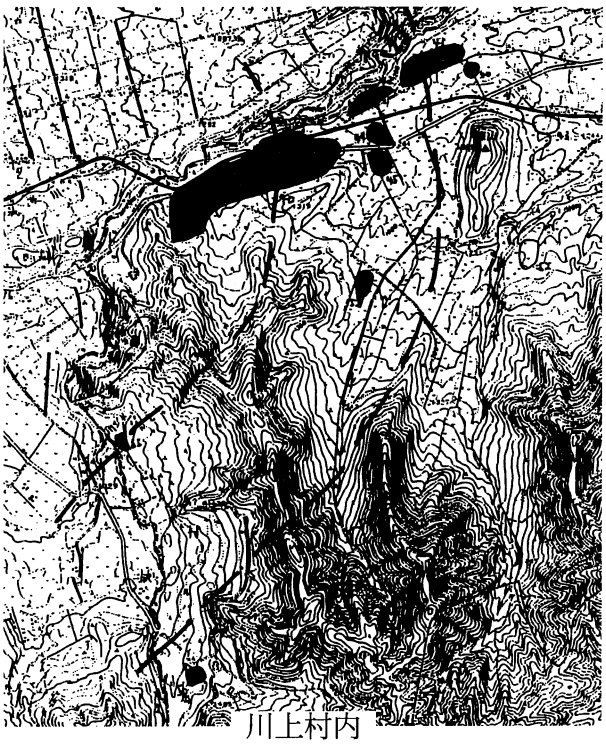
史跡矢出川遺跡をはじめ３０ヶ所の遺跡を確認。八ヶ岳山麓に広がる台地上に遺跡は所在し、特に野辺山地区に多くの遺跡が集中している。この地域では現在確認されている以外にも遺跡が存在する可能性が高い。遺跡はほとんどが畑地となっており、営農により深耕されている畑も多い。各遺跡では旧石器時代から奈良・平安時代の遺物が確認されている。なお、国史跡の矢出川遺跡は村有地となっており、路線にはかからない予定である。

**川上村内**

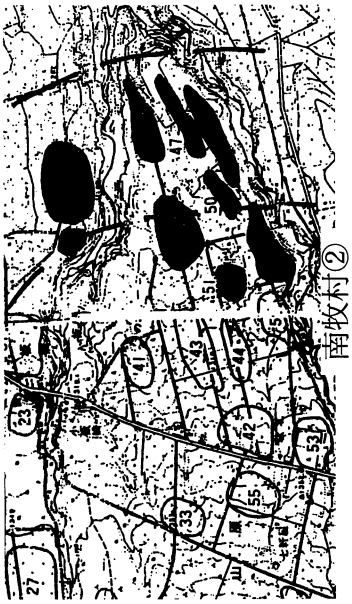
村史跡柏垂遺跡をはじめ１０ヶ所の遺跡を確認。南牧村野辺山地区と谷を挟んだ御所平地区では旧石器時代を中心とした遺跡が多く所在する。遺跡の現状は畑地がほとんどで、営農により深耕されている畑もある。村史跡の柏垂遺跡は旧地形が残った状況で山林のまま村有地として保存されている。

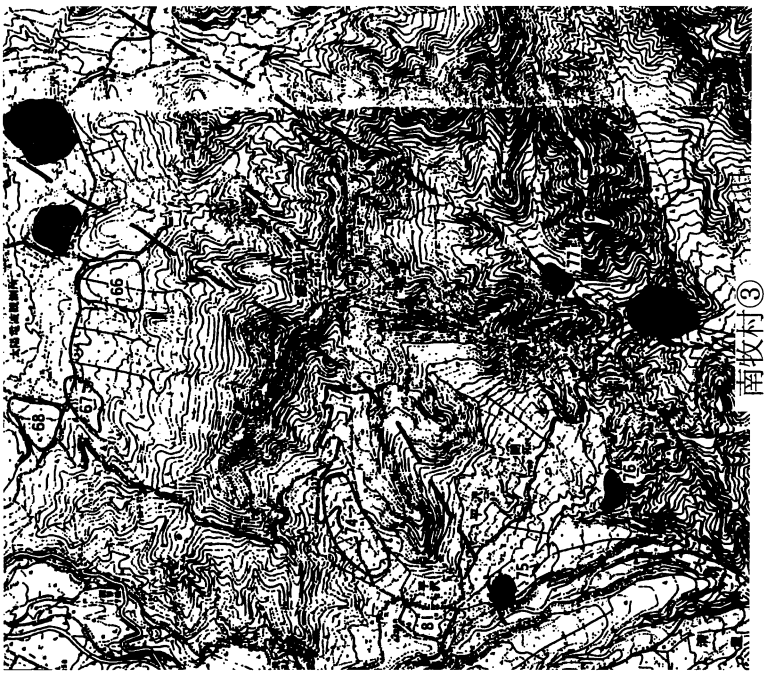
（仮）八千穂ＩＣ～山梨県境間の踏査で６７ヶ所の遺跡を確認した。確認した遺跡一覧は別表のとおりである。今後は路線が決定される段階で、路線内の詳細な現地確認を行い、遺跡の状況及び遺跡の可能性の有無等を確認する必要がある。

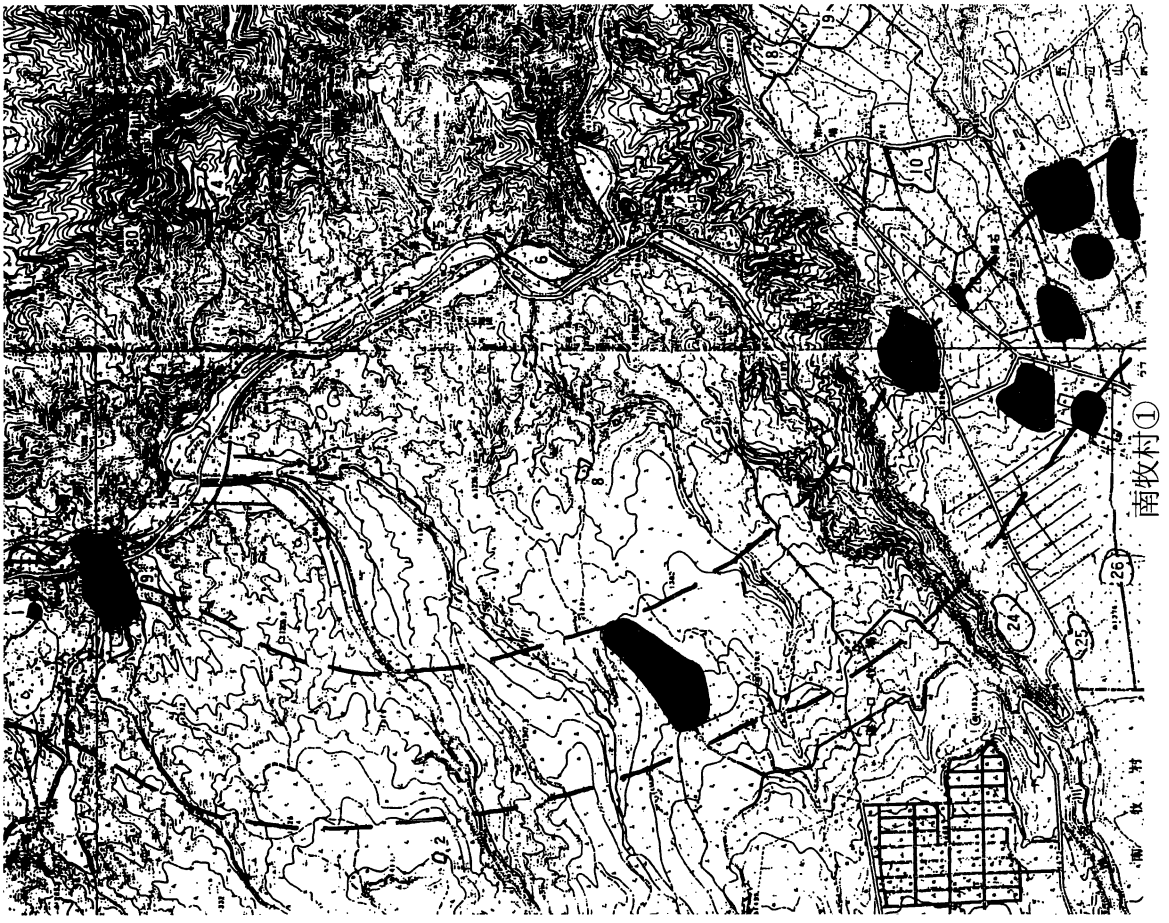





**第７図　平成13年度現地踏査範囲（1）**




第8図　平成13年度現地踏査範囲（2）

# 中部横断自動車道八千穂ＩＣ（仮）～県境間　関係遺跡一覧

| 番号 | 町村番号 | 市町村名 | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 時代 | | | | | | | | 立地 | 現状 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 旧 | 縄 | 弥 | 古 | 奈 | 平 | 中 | 近 | | | |
| 1 | 32 | 八千穂村 | 中原遺跡 | 八千穂村千代里・馬流 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 水田・畑 | |
| 2 | 1 | 小海町 | 馬越峠下遺跡 | 小海町千代里・本間 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 山麓 | 山林 | |
| 3 | 2 | | 膳棚遺跡 | 小海町千代里・本間 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 山麓 | 山林 | |
| 4 | 3 | | 鷹の巣遺跡 | 小海町千代里・本間 | 散布地 | | ○ | | | | ○ | | | 山麓 | 畑地 | |
| 5 | 4 | | ヨシノクボ遺跡 | 小海町千代里・本間 | 散布地 | | ○ | | | | ○ | | | 山腹 | 水田・畑 | |
| 6 | 5 | | 大谷地遺跡 | 小海町千代里・大谷地 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 山麓 | 山林 | |
| 7 | 9 | | 宮上遺跡 | 小海町千代里・宮下 | 散布地 | | ○ | | | | ○ | | | 山腹 | 墓地他 | |
| 8 | 10 | | 蛇岩遺跡 | 小海町千代里・宮下 | 散布地 | | | | | | ○ | | | 台地 | 畑 | |
| 9 | 11 | | 下相沢遺跡 | 小海町千代里・宮下 | 散布地 | | ○ | | | | ○ | | | 山麓 | | |
| 10 | 12 | | 中原遺跡 | 小海町千代里・本間川 | 集落跡 | | ○ | | | | ○ | | | 台地 | 畑 | |
| 11 | 13 | | 藤巻遺跡 | 小海町千代里・本間川 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 水田・畑 | |
| 12 | 24 | | 北牧小学校敷地遺跡 | 小海町豊里・馬流 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 山麓 | 学校校庭 | |
| 13 | 25 | | 穴沢遺跡 | 小海町豊里・馬流 | 集落跡 | | ○ | ○ | | | ○ | | | 山麓 | 畑 | |
| 14 | 26 | | 小原遺跡 | 小海町豊里・馬流 | 集落跡 | | ○ | | | | | | | 台地 | 宅地 | |
| 15 | 27 | | 蛇石遺跡 | 小海町豊里・馬流 | 散布地 | | | ○ | | | | | | 山麓 | 山林 | |
| 16 | 28 | | 地蔵平遺跡 | 小海町豊里・馬流 | 散布地 | | ○ | | | | ○ | | | 台地 | 畑 | |
| 17 | 29 | | 地蔵前遺跡 | 小海町豊里・馬流 | 散布地 | | ○ | | | | ○ | | | 台地 | 水田 | |
| 18 | 30 | | 芦の平遺跡 | 小海町豊里・馬流 | 散布地 | | ○ | | | | ○ | | | 山麓 | 水田 | |
| 19 | 31 | | 五輪窪遺跡 | 小海町豊里・杉尾 | 散布地 | | ○ | | | | ○ | | | 山麓 | 畑 | |
| 20 | 32 | | ヤソウダ遺跡 | 小海町豊里・馬流 | 散布地 | | ○ | | | | ○ | | | 山腹 | 山林 | |
| 21 | 33 | | 木の木沢遺跡 | 小海町豊里・馬流 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 山腹 | 山林 | |
| 22 | 35 | | 隅高遺跡 | 小海町豊里・八那池 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 山麓 | 畑 | |
| 23 | 36 | | 前の原遺跡 | 小海町豊里・八那池 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 24 | 40 | | 藤島遺跡 | 小海町豊里・松原 | 散布地 | | | | | ○ | ○ | | | 山麓 | 水田 | |
| 25 | 67 | | 本間城跡 | 小海町千代里・本間上 | 城跡 | | | | | | | ○ | | 丘陵 | 山林 | |
| 26 | 68 | | 本間下城跡 | 小海町千代里・本間下 | 城跡 | | | | | | | ○ | | 丘陵 | 山林 | |
| 27 | 70 | | 神光寺跡 | 小海町豊里・松原 | 寺跡 | | | | | | | ○ | ○ | 湖畔 | | |
| 28 | 1 | 南牧村 | 北坂上遺跡 | 南牧村海尻字北坂上 | 散布地 | | | | | | | ○ | | 山腹 | 山林・畑 | |
| 29 | 3 | | 樽ノ原遺跡 | 南牧村海尻字樽ノ原 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 30 | 11 | | 二手遺跡 | 南牧村海ノ口字二手 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 31 | 20 | | 大原遺跡 | 南牧村海ノ口字大原 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 32 | 21 | | 夫婦石西遺跡 | 南牧村板橋字夫婦石 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 33 | 22 | | 干草場遺跡 | 南牧村板橋字小丸 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |

| 番号 | 町村番号 | 市町村名 | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 時代 | | | | | | | | 立地 | 現状 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 旧 | 縄 | 弥 | 古 | 奈 | 平 | 中 | 近 | | | |
| 34 | 23 | | 板橋遺跡 | 南牧村板橋字家ノ上 | 散布地 | | ○ | ○ | | | | | | 台地 | 宅地・荒地 | |
| 35 | 24 | | 西手原遺跡 | 南牧村板橋字西手原 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 36 | 34 | | 黒沢遺跡 | 南牧村板橋字黒沢 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 37 | 35 | | 上ノたい遺跡 | 南牧村板橋字上ノたい | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 38 | 36 | | 立石西遺跡 | 南牧村板橋字立石 | 散布地 | | | | | ○ | ○ | | | 台地 | 畑 | |
| 39 | 37 | | 茶堰遺跡 | 南牧村板橋字茶堰 | 散布地 | | ○ | ○ | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 40 | 38 | | ノミンドウ遺跡 | 南牧村板橋字たけ | 散布地 | | ○ | ○ | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 41 | 39 | | たけ遺跡 | 南牧村板橋字たけ | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 42 | 40 | | 夫婦石遺跡 | 南牧村板橋字夫婦石 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 43 | 45 | | 梨ノ木平第4遺跡 | 南牧村板橋字梨ノ木平 | 散布地 | | ○ | | | ○ | ○ | | | 台地 | 畑 | |
| 44 | 46 | | 梨ノ木平第5遺跡 | 南牧村板橋字梨ノ木平 | 散布地 | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | 台地 | 畑、山林 | |
| 45 | 47 | | 梨ノ木平第6遺跡 | 南牧村板橋字梨ノ木平 | 散布地 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | 台地 | 畑 | |
| 46 | 48 | | 梨ノ木平第7遺跡 | 南牧村板橋字梨ノ木平 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 47 | 49 | | 中ッ原遺跡 | 南牧村野辺山字梨ノ木平 | 散布地 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | 台地 | 畑 | |
| 48 | 50 | | 中ッ原北遺跡 | 南牧村板橋字梨ノ木平 | 散布地 | | ○ | | | ○ | ○ | | | 台地 | 畑 | |
| 49 | 51 | | 中ノ沢遺跡 | 南牧村板橋字梨ノ木平 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 台地 | 牧場 | |
| 50 | 62 | | 矢出川北遺跡 | 南牧村野辺山字二ッ山 | 散布地 | ○ | ○ | ○ | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 51 | 63 | | 矢出川南遺跡 | 南牧村野辺山字二ッ山 | 散布地 | ○ | ○ | ○ | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 52 | 65 | | 三沢西遺跡 | 南牧村野辺山字二ッ山 | 散布地 | ○ | ○ | | | | | ○ | | 台地 | 畑 | |
| 53 | 75 | | 出口遺跡 | 南牧村平沢字舟久保 | 散布地 | | ○ | | | | | ○ | | 山麓 | 畑 | |
| 54 | 76 | | 馬越遺跡 | 南牧村平沢字軽石川 | 散布地 | | ○ | | | ○ | ○ | | | 山麓 | 畑、水田 | |
| 55 | 77 | | 西小倉遺跡 | 南牧村平沢字西小倉 | 散布地 | | ○ | | | | | | | 山麓 | 畑 | |
| 56 | 78 | | 小倉遺跡 | 南牧村平沢字小倉馬越 | 集落跡 | | | | | | | ○ | | 山麓 | 水田 | |
| 57 | 79 | | 海尻城跡 | 南牧村海ノ口字城ノ下 | 城跡 | | | | | | | ○ | | 丘陵 | 山林、寺 | |
| 58 | 40 | 川上村 | 切草A遺跡 | 川上村御所平切草 | 散布地 | ○ | | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 59 | 41 | | 切草B遺跡 | 川上村御所平切草 | 散布地 | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | 台地 | 畑 | |
| 60 | 42 | | 切草C遺跡 | 川上村御所平切草 | 散布地 | ○ | ○ | | | | ○ | | | 台地 | 畑 | |
| 61 | 43 | | 東森遺跡 | 川上村御所平東森 | 散布地 | ○ | | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 62 | 44 | | 西の腰A遺跡 | 川上村御所平西の腰 | 散布地 | ○ | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 63 | 45 | | 西の腰B遺跡 | 川上村御所平西の腰 | 散布地 | ○ | ○ | | | | | | | 台地 | 畑 | |
| 64 | 46 | | 柏垂遺跡 | 川上村御所平柏垂 | 散布地 | ○ | ○ | | | | | | | 山麓 | 山林、畑 | 村史跡 |
| 65 | 53 | | 内日床遺跡 | 川上村原 | 散布地 | ○ | | | | | | | | 山麓 | 山林、畑 | |
| 66 | 55 | | 大平遺跡 | 川上村樋沢大平 | 散布地 | ○ | ○ | | | | | | | 山麓 | 山林、牧場 | |
| 67 | 56 | | 三沢遺跡 | 川上村御所平三沢 | 散布地 | ○ | ○ | | | | | | | 山麓 | ゴルフ場 | |

## (2) 試掘調査

### ア　野火附遺跡隣接地

#### (ア) 遺跡の概要

野火附遺跡は、平成５年度に当課が実施した上信越自動車道建設に先立つ試掘調査により存在が明らかとなった遺跡である。鋳物師屋遺跡群の一角を占める遺跡で、上信越自動車道建設に伴う発掘調査では、古墳時代の住居跡１７軒、掘立柱建物跡６棟などの遺構が発見されている。

今回の調査地は、南側を深い田切りに刻まれた台地南端に位置し、標高は７４４ｍほどで、元々は南側の田切りに向かい緩く傾斜した地形となっていたようである。

#### (イ) 調査方法

重機（バックホー）を用いてトレンチを掘削し、手作業で精査し、遺物の採集、遺構を検出し、遺跡の内容を確認する。

#### (ウ) 調査期間

平成１２年度：平成１３年３月２１日(水)～２３日(金)

平成１３年度：平成１４年２月１８日(月)～２０日(水)

#### (エ) 平成１２年度の調査内容

平成１２年度は、野火附遺跡南側隣接地（上信越自動車道西側）に１２本のトレンチを設定し、遺跡の広がりと内容を確認した。調査地での基本層序は、上部より現耕土、黒褐色土、黄褐色土となっており、地山の黄褐色土上面が遺構検出面となる。しかし、調査範囲は以前に構造改善が行われ、部分的に黄褐色土層を削平し、南側や西側の本来低くなっていた部分に客土を行っている。そのため、５～６トレンチ付近では黄褐色の客土が２０～４０㎝ほどの厚さで堆積し、客土の下に本来の黒色土層が薄く残存している程度である。

調査の結果、１～４トレンチで住居（？）２軒、土坑１２基、溝１条などの遺構が確認され、野火附遺跡の範囲が従来の遺跡範囲より南側まで広がっていることが判明した。出土遺物は古墳時代の土器が出土しており、当該期の遺構と想定される。

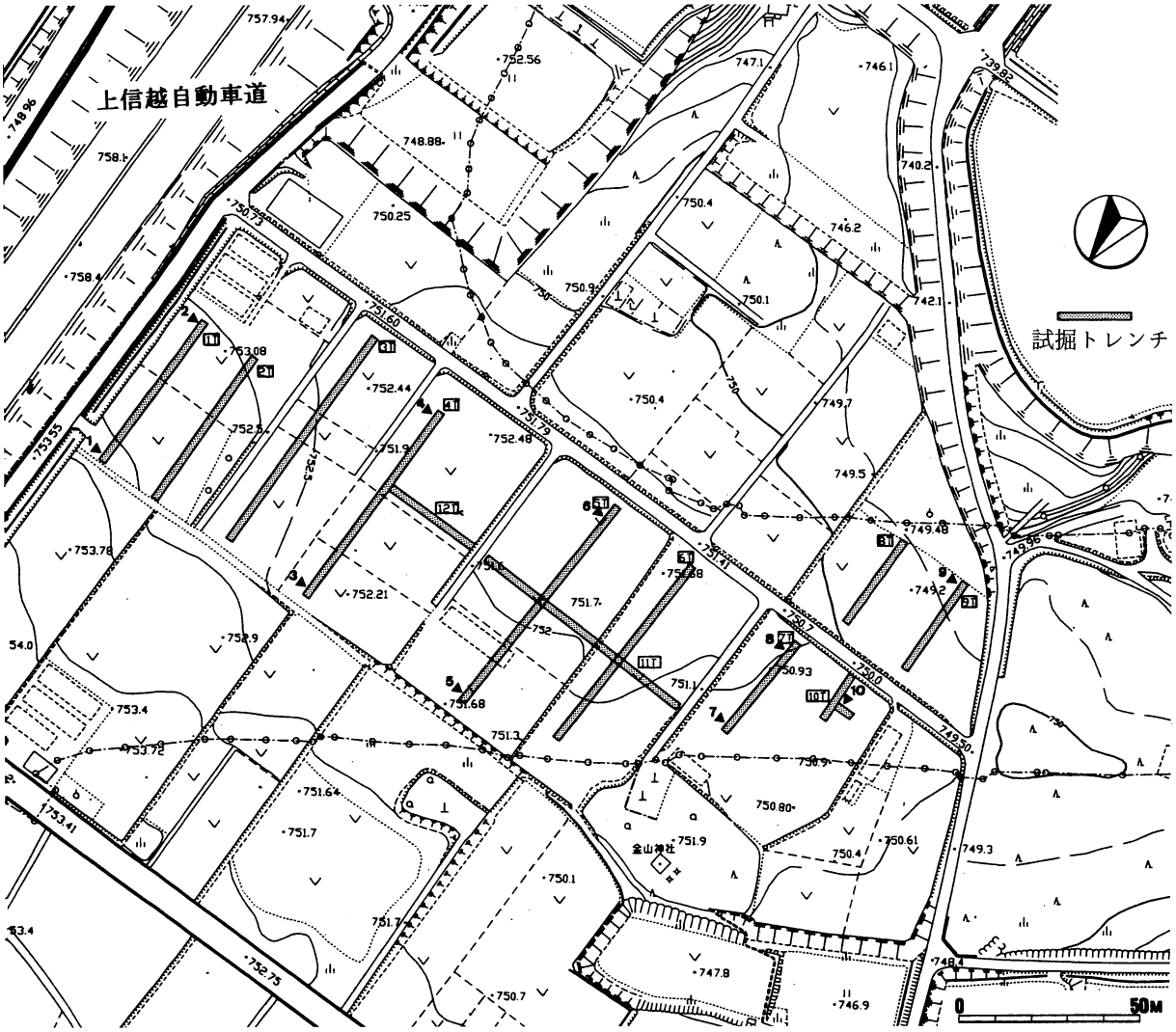
５・６・１１・１２トレンチの周辺は、構造改善による削平及び客土が著しく、遺構・遺物は確認されなかった。一方、調査地西側の１０トレンチでは直線的な溝跡が確認された（第１０図）。溝は田切り地形を分断するように南北に伸びており、８・９トレンチの間に伸びていくと考えられる。部分的な土層確認によると、断面がＶ字状で７０㎝ほどの深さを測る。遺物は出土しなかったが、調査地西側に位置する中世の野火附城に関係した施設の可能性が考えられる。

#### (オ) 平成１３年度の調査内容

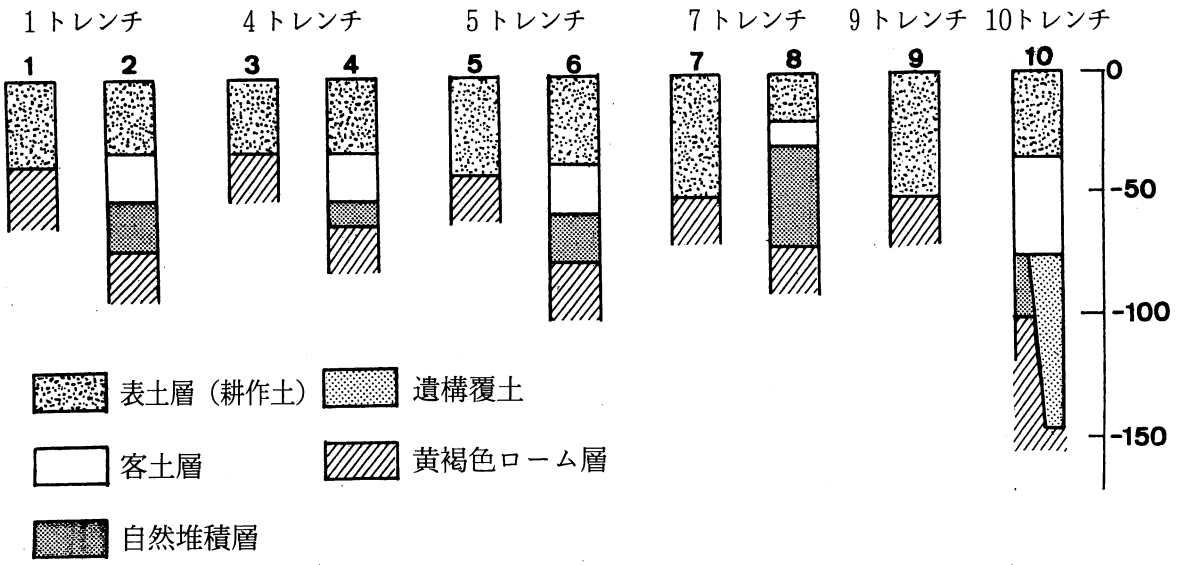
平成１３年度は、野火附遺跡の北側隣接地に８本のトレンチを設定し、遺跡の広がりと内容を確認した。上信越自動車道の調査範囲では、ほ場整備により遺構確認面である黄褐色土層まで撹乱されていたが、周辺まで住居跡などの遺構が存在し、遺跡が北側に広がっている可能性が考えられた部分である。

１～４トレンチ部分での基本土層は、地表面から遺構検出面となる地山の黄褐色土まで約８０～９０㎝を測り、現耕作土の下部に茶褐色土や黄褐色土・黒褐色土が堆積しているが、これは過去のほ場整備事業による客土などであり、本来の遺物包含層は黄褐色土中を掘り込んでいる住居跡などの遺構部分を除き殆ど存在していない。

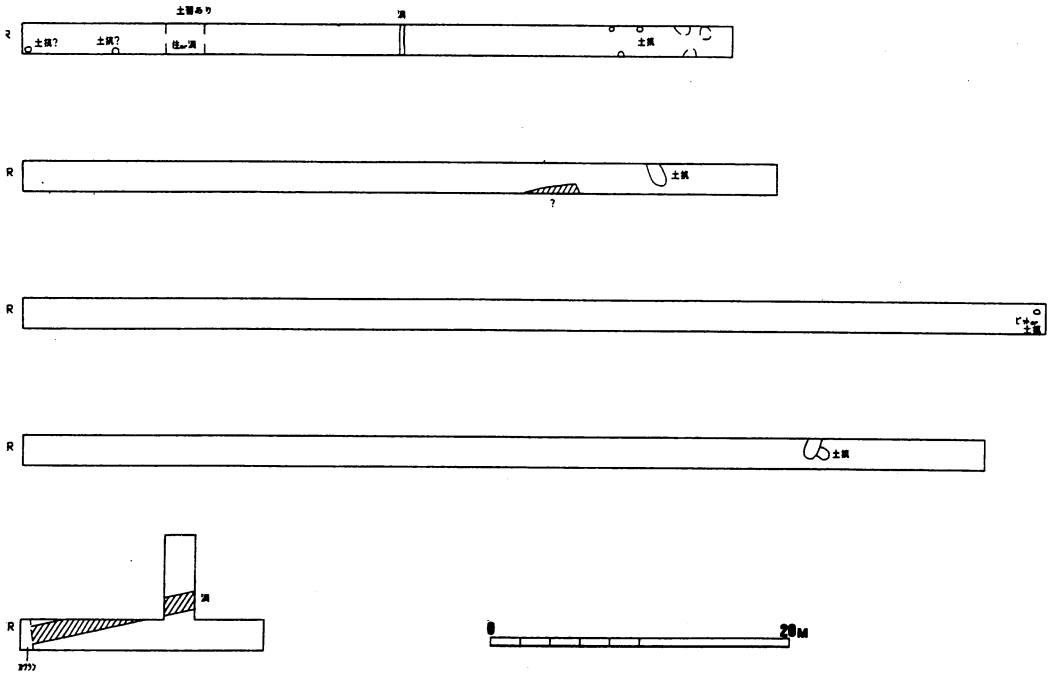
５・６トレンチで確認された谷状の窪み部分では、黄褐色土まで１６０㎝程の深さがあり、現耕作土から７５㎝程度まではほ場整備により客土などが見られるが、その下層には、軽石などを含む黒褐色土や茶褐色土が堆積している。中央部に向かい緩やかに傾斜しており、自然の谷状の地形と考えられる。遺跡北西部に見られる田切地形が延びてきているのかも知れない。




トレンチ位置図




**第9図　小諸市野火附遺跡　平成12年度調査**



**第10図　トレンチ内遺構分布図**

上信越自動車道西側の７・８トレンチでは、現耕作土の下部に黄褐色の砂質土が５０～６０㎝の厚さで客土されており、その下部が地山の黄褐色土となる。

調査の結果、住居跡５軒（１トレンチ１軒、２・３トレンチ各２軒）土坑、掘立柱建物跡と考えられる柱穴群や溝跡などが確認され、野火附遺跡の範囲が従来の遺跡範囲より北側まで広がっていることが判明した。

住居跡は北壁にカマドを持ち、出土遺物は古墳時代と考えられる土師器や須恵器が出土しており、当該期の遺構と想定される。

掘立柱建物跡と考えられる柱穴群は３トレンチと４トレンチで確認された。３トレンチの柱穴群は大きさがやや不ぞろいのものが８本ほど確認されており、数棟の掘立柱建物跡となる可能性が高い。４トレンチでは直径５０㎝ほどの柱穴が２本確認され掘立柱建物跡と考えられる。

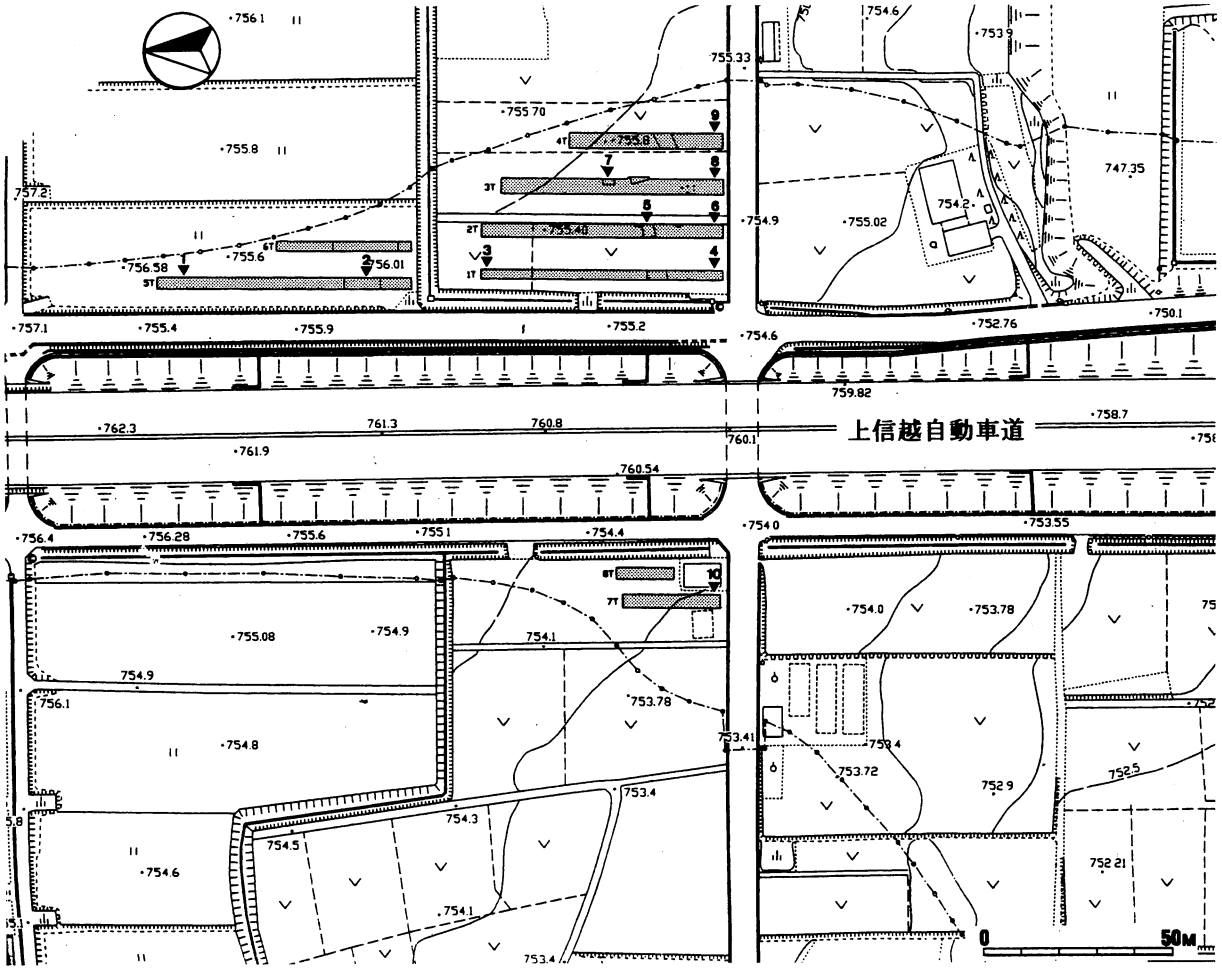
また、４トレンチで確認された幅５ｍほどの溝は、上信越自動車道に伴なう調査の際検出された溝跡につながるものと想定される。

各遺構の分布は比較的散漫で、上信越自動車道建設に伴なう調査状況と同様と考えられる。なお、各遺構の分布域は今回の調査対象地では南側部分にあたり、従来野火附遺跡とされてきた範囲に近い地点であり、５・６トレンチで確認された谷状の窪み付近までが遺跡の広がりと想定される。

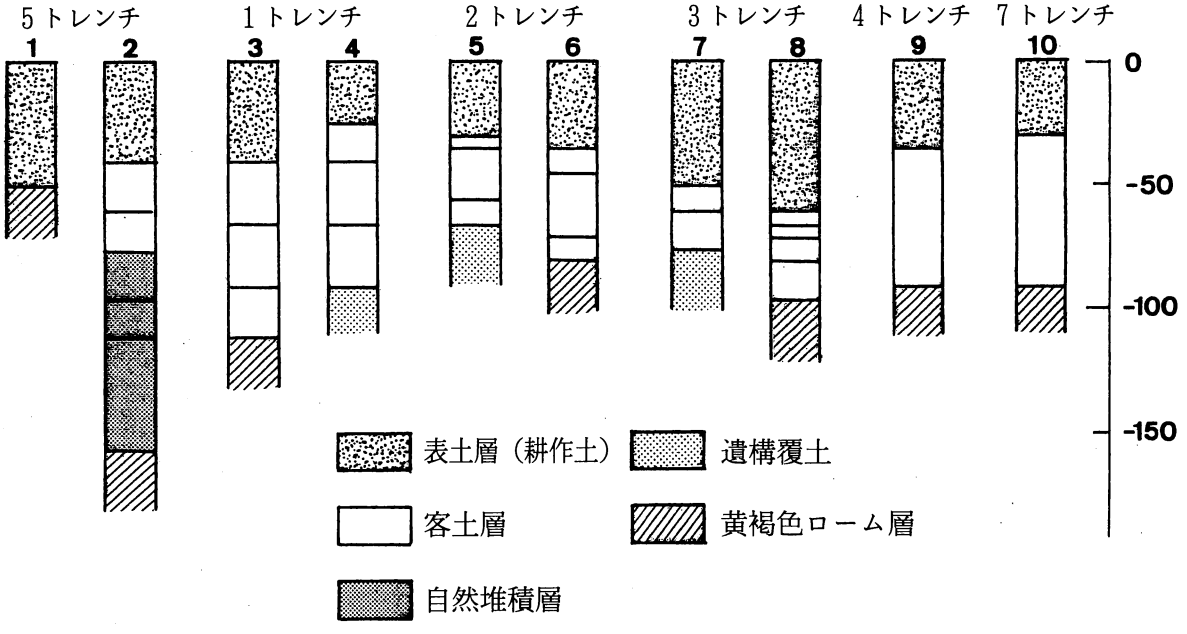
(カ)　今後の保護措置について

２年度にわたる試掘調査の結果、野火附遺跡の範囲が従来の遺跡範囲より北側及び南側に広がっていることが確認された。また、野火附城跡に関係すると考えられる遺構が遺跡範囲より東側まで広がっていることも確認された。

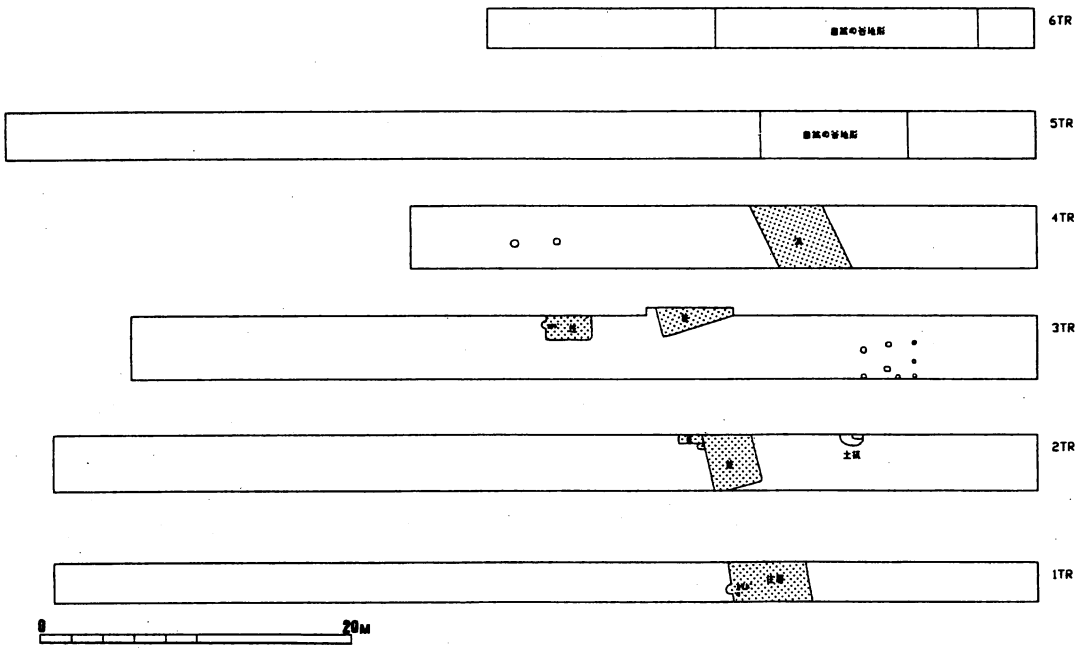
具体的には、平成１２年度に調査した上信越自動車道の西側については本調査範囲が約５,６００㎡増加し、平成１３年度に調査した上信越自動車道の東側の１～４トレンチ設定範囲、約３,２５０㎡についても本調査を実施する必要がある。また、平成１２年度の調査結果により、野火附城跡についても約３,７００㎡の本調査範囲の拡大が必要である。




トレンチ位置図




**第11図　小諸市野火附遺跡　平成13年度調査**




**第12図　トレンチ内遺構分布図**

中部横断自動車道に伴う発掘調査は、平成１３年度から長野県埋蔵文化財センターが実施している。今回の試掘調査結果に基づく野火附遺跡・野火附城跡の調査対象面積拡大については、事業者と調整を図り、その上で、長野県埋蔵文化財センターが調査を実施する予定である。

**イ　北畑遺跡群隣接地**

(ｱ)　遺跡の概要

今回の調査地は、北は百々川を境とする千曲川氾濫原、南西は片貝川に挟まれた標高６５４～６５６ｍの扇状地上に位置する。現地形は北畑遺跡群から連続してほぼ平坦で、北に向かい緩やかに傾斜し、さらに百々川・片貝川に向け急勾配で標高を下げる。なお、北畑遺跡群は、調査歴はないものの、弥生時代～平安時代の遺跡として周知されている。

(ｲ)　調査方法

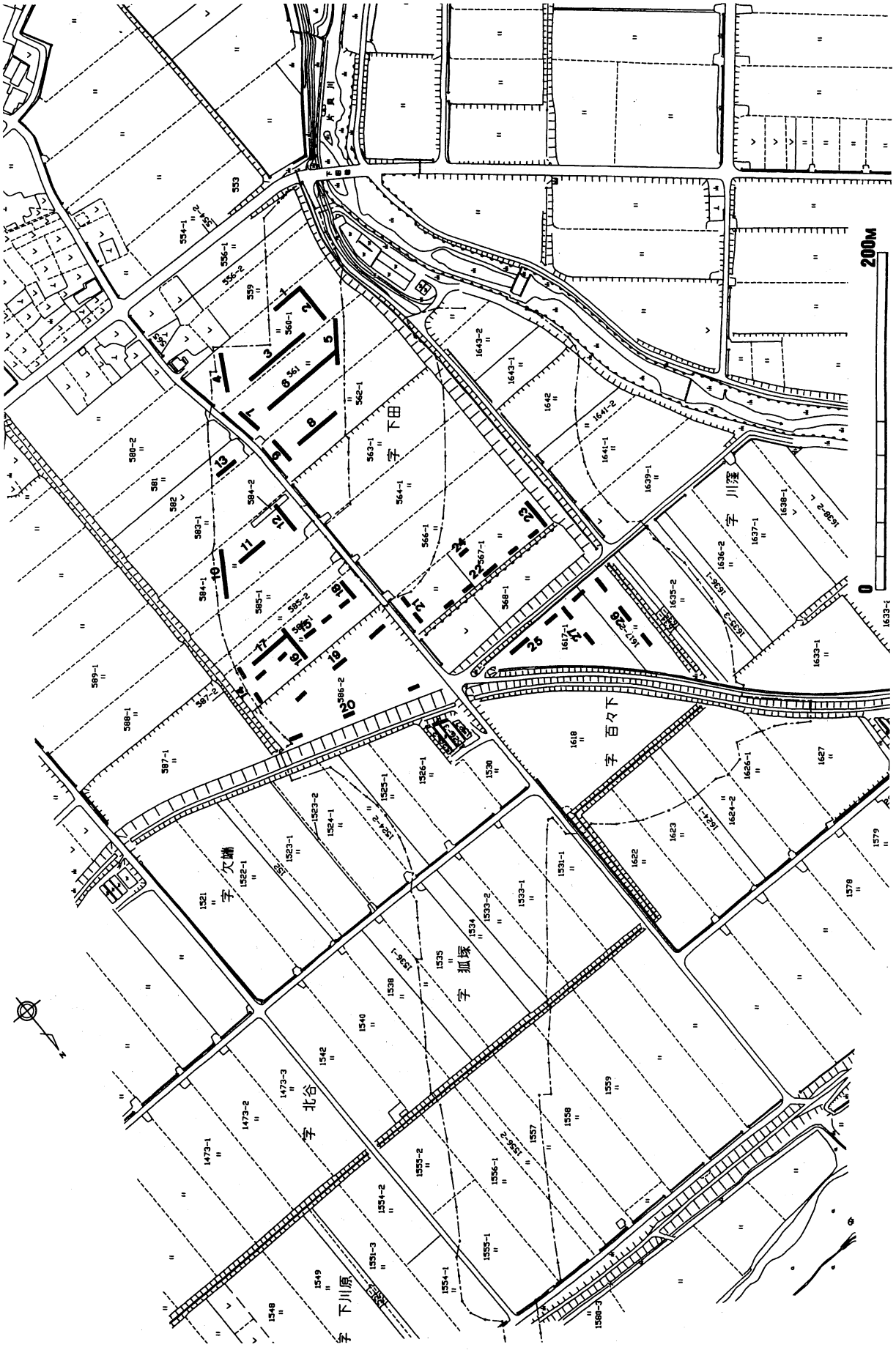
重機（バックホー）を用いてトレンチを掘削し、手作業で精査し、遺物の採集、遺構を検出し、遺跡の内容を確認する。

(ｳ)　調査期間

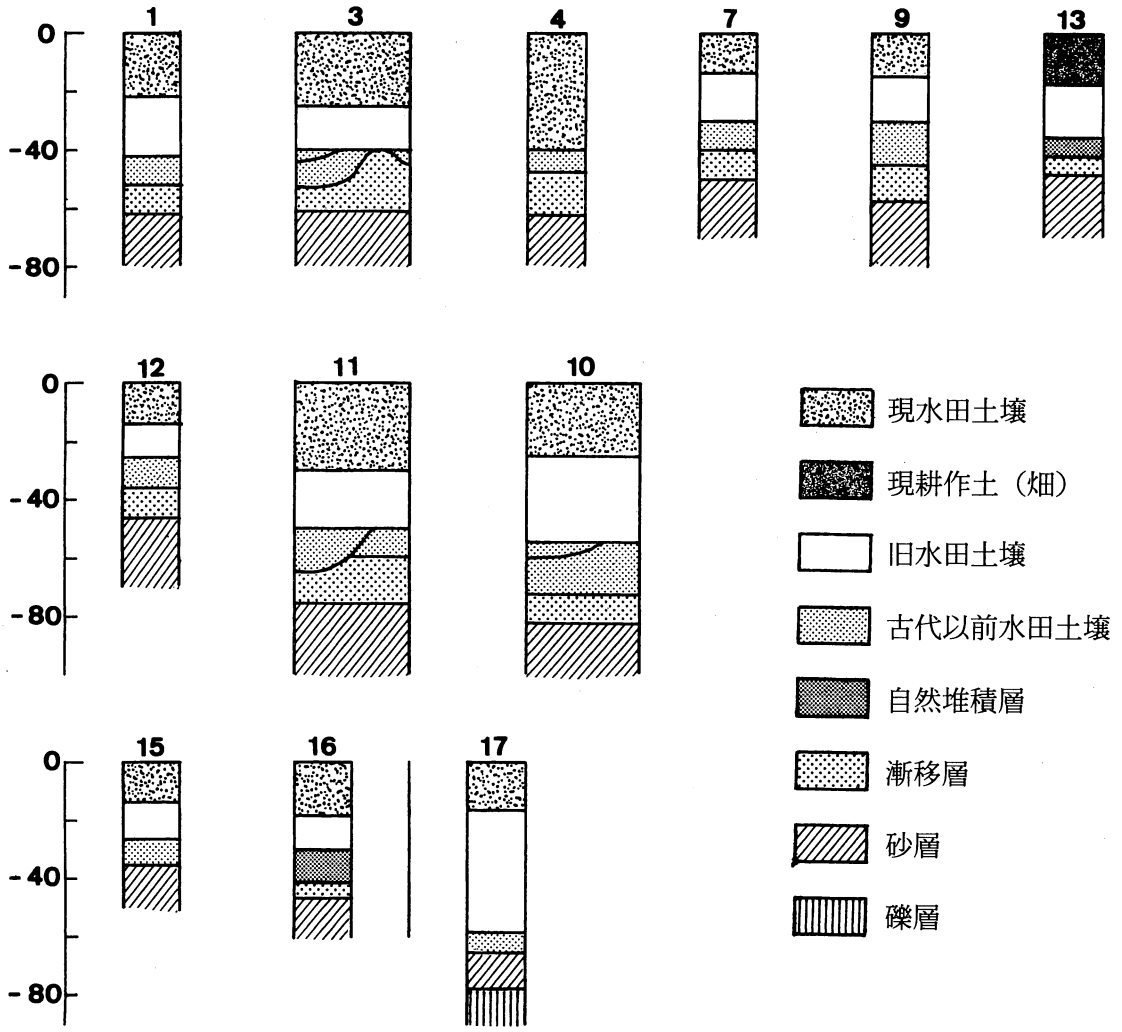
平成１５年３月１７日(月)～２２日(土)

(ｴ)　調査内容

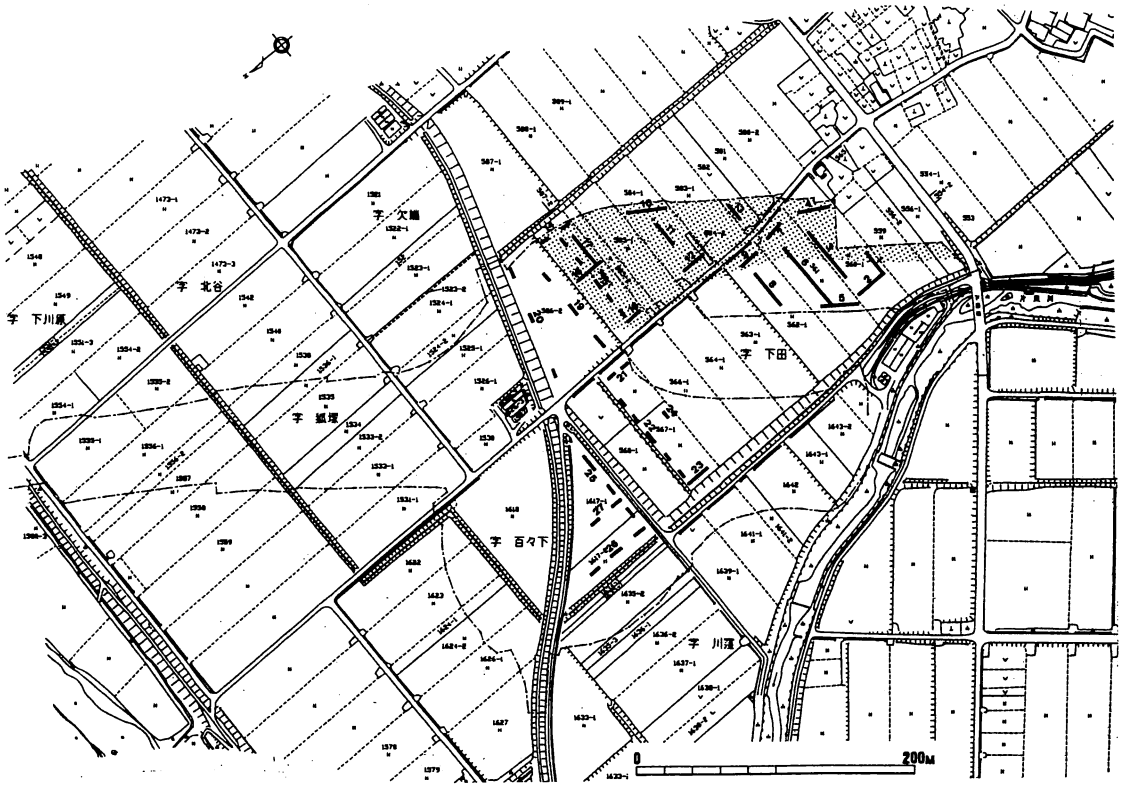
今回、北畑遺跡群隣接地に２７本のトレンチを設定し、遺跡の広がりと内容を確認した。調査地での基本層序は、上部より現耕土、暗褐色砂質土、暗黄褐色砂層となっており、この内、暗褐色砂質土は古代以前の水田土壌である。また、場所により地山の暗黄褐色砂層が礫層となる。しかし、調査範囲は以前に構造改善が行われ、部分的に暗褐色砂質土層または地山の暗黄褐色砂層・礫層までの削平と、旧地表面への客土が観察される。また、水田土壌が重層的に観察され、古代より水田耕作が連綿となされていたことが理解される。




第13図　佐久市北畑遺跡群




第14図　北畑遺跡群土層模式図（柱状図上のNo.はトレンチNo.）




第15図　北畑遺跡調査を必要とする範囲

古代以前の水田土壌が確認されたトレンチは、１・３・４・７・９～１２・１５～１７トレンチで、この内、１０トレンチで確認された水田土壌が最も遺存状況がよく、畦畔が確認された。トレンチ内の水田土壌上面からは須恵器杯の口縁部片が出土しており、また、１６トレンチでは、古墳時代～古代に相当する完形に近い甕形土器が水田土壌下部から出土しており、これらの土器をもって水田土壌の時期判断資料とした。なお、２・５・８トレンチでは水田土壌の母材もしくは砂層への漸移層までが構造改善、または後世の耕作に伴い削平されており、水田址の状況を確認することは不可能と判断される。

１９～２４トレンチは旧地形でいえば斜面部に相当し、堆積状況も地山の礫層までの削平と客土が観察された。遺物は出土しなかった。

２５～２７トレンチは現地形でも低地部で、千曲川の氾濫原であることが想定される。堆積状況も、現代の水田土壌・砂層・礫層のみで構成されている。

調査の結果、古代以前と考えられる水田土壌が多くのトレンチで確認され、調査対象地が当該期の生産域に相当することが判明した。周知されている北畑遺跡群は調査歴がないため不明な部分が多いが、地形的に見ても周辺部では標高が高く、安定していたことが予想されることから、居住域と考えられる。したがって、居住域と生産域という関係で、周知の遺跡範囲と今回の調査地を把握することが可能であり、北畑遺跡群の範囲が従来の遺跡範囲より北及び西側まで広がっていると判断される。出土遺物は縄文時代～平安時代の土器が出土しているが、水田土壌からは平安時代の須恵器等が主体的に出土していることから、水田址は少なくとも古代以前の所産と考えられる。

以上のことから、今回の中部横断道建設予定地の内、調査を必要とする範囲は、低地・斜面部を除いて、現農道を軸に西側の一部と東側一帯ということとなった（第１５図）。

(オ) 今後の保護措置について

今回の試掘調査の結果、北畑遺跡群の範囲が従来の遺跡範囲より北及び西側に広がっていることが確認された。周知の遺跡範囲は、中部横断自動車道建設予定地内にわずかにかかる程度であったが、今回の試掘調査により、記録保存を目的とする発掘調査が必要な範囲は約１２,５００㎡となった。

中部横断自動車道に伴う発掘調査は長野県埋蔵文化財センターが実施してきており、北畑遺跡群についても事業者との調整のうえ、長野県埋蔵文化財センターが調査を実施する予定である。

# おわりに

三遠南信自動車道は平成１１年度から、中部横断自動車道は平成１３年度から長野県埋蔵文化財センターが本調査を実施している。いずれの調査も、これまで実施してきた事業地内詳細分布調査の調査結果をもとに、事業者との調整、調査計画の立案等を進めている。そうした中で、平成１３年度に実施された三遠南信自動車道事業地内に所在する飯田市竹佐中原遺跡の本調査では、後期旧石器時代を遡ると考えられる石器群の発見という、試掘結果とは大きく異なるセンセーショナルな調査成果を得ることとなった。限られた期間、範囲で実施する試掘調査の難しさ、怖さを痛感するところである。

三遠南信自動車道は、飯田市の南部、標高７００m前後の山地・丘陵地が多くを占め、その間に小さな河川と平地が点在するような地形を、東西に横断して建設される計画である。自動車道の大部分は山腹に建設されることから、森林伐採を含め、切り土・盛土・橋梁や法面保護等の土木工事が設計され、部分的にはすでに工事発注の段階まで進んでいる。

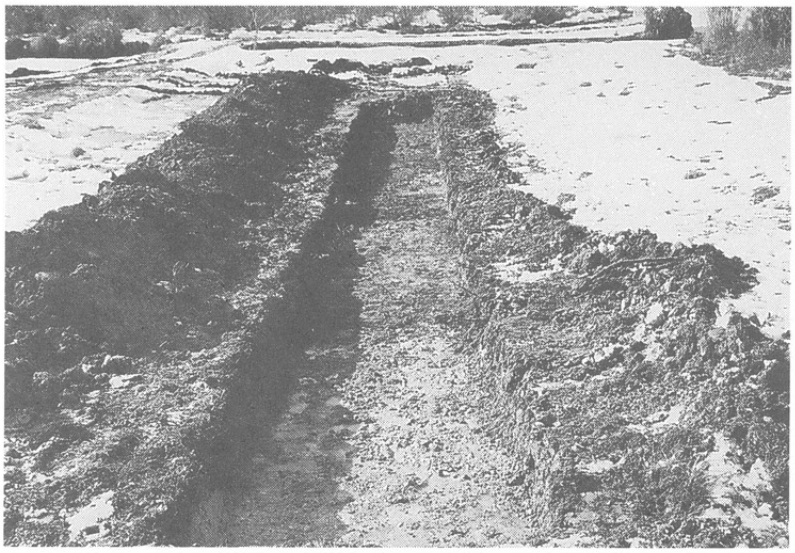
中部横断自動車道は、佐久地域に特有な田切地形を南に向かい、千曲川を渡って（仮）佐久南ＩＣに至る。この田切地形の上には、遺構分布の密度が高く、場所によっては重層的な大規模な集落遺跡が展開していることが予想されている。一方、（仮）佐久南ＩＣ～山梨県境までは山間部を南下するルートで建設が計画されている。この（仮）佐久南ＩＣ以南の建設計画の先行きについては、不透明な部分が多く、今後の展開を注視していくほかない状況にある。

いずれの道路建設事業においても、様々な要因により用地交渉の進捗状況が鈍く、試掘調査を含めた埋蔵文化財の調査期間を十分に確保することが課題の一つとなっている。これは、近年の開発事業全般に言えることである。公共事業について言えば、バブル経済全盛期に比べれば工事着工または完成期日の制限がやや緩やかになっているため、記録作成目的の発掘調査（本調査）の期間確保に支障をきたすことが少ない。ただし、その分、文化財保護側の責務で実施している試掘調査にしわ寄せが来つつあることは否めない状況にある。

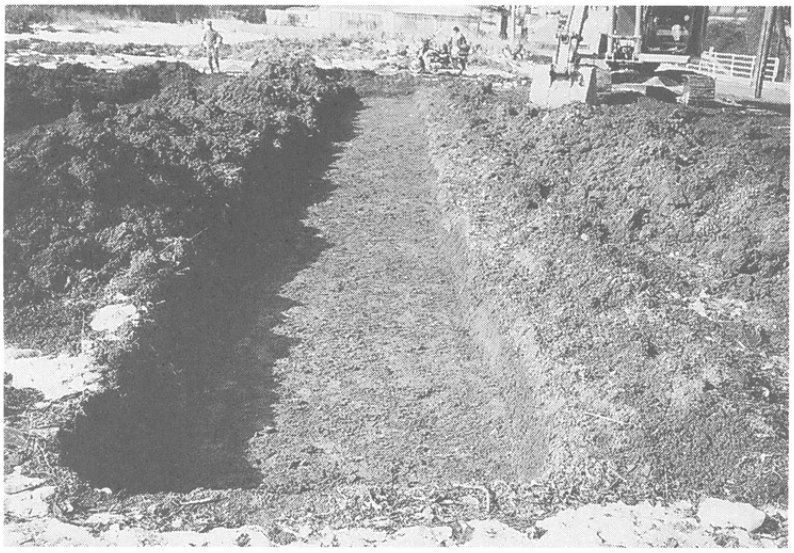
長野県内においては、今後も中部縦貫自動車道建設等の大規模な開発が計画されている。様々な事業に応じ、短期間で効率的な試掘調査の実施が求められていることは言うまでもなく、これまでの蓄積を踏まえ、今後とも努力し、大規模開発事業地内詳細分布調査を継続して実施していきたい。

# 写　　真

三遠南信自動車道関連
飯田市赤羽原遺跡

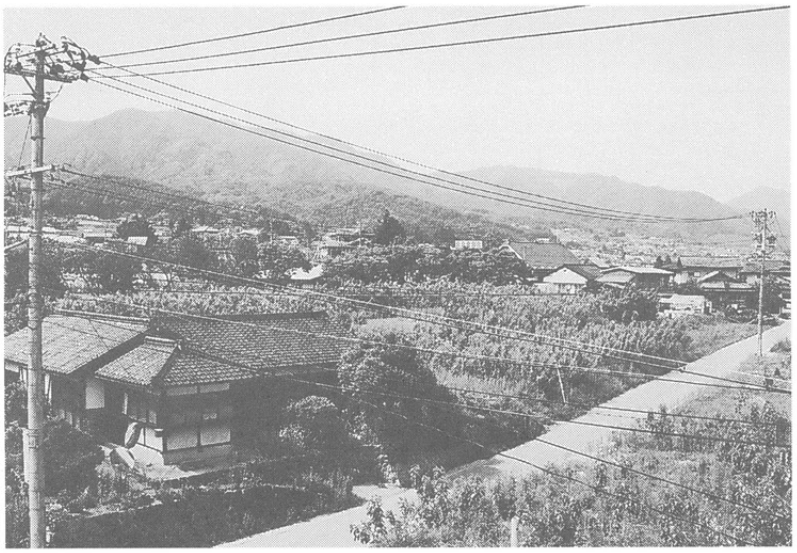


赤羽原遺跡
１トレンチ全景

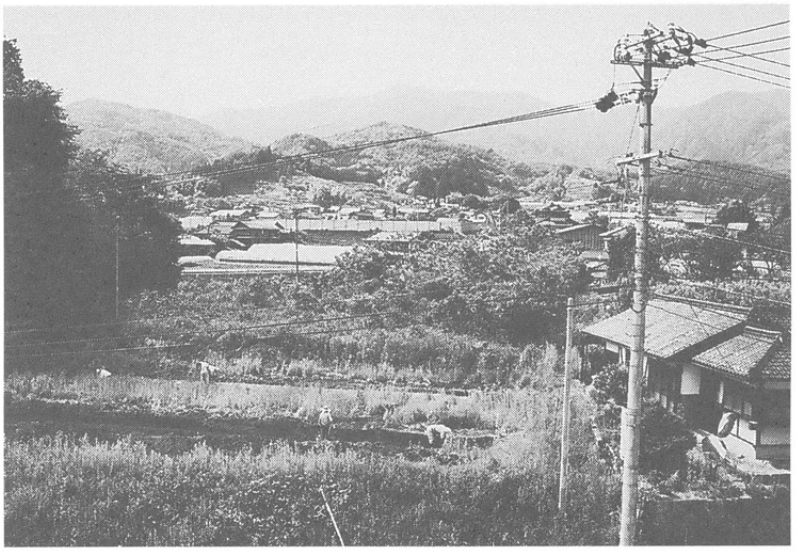


三遠南信自動車道関連
飯田市下り松遺跡
２トレンチ全景

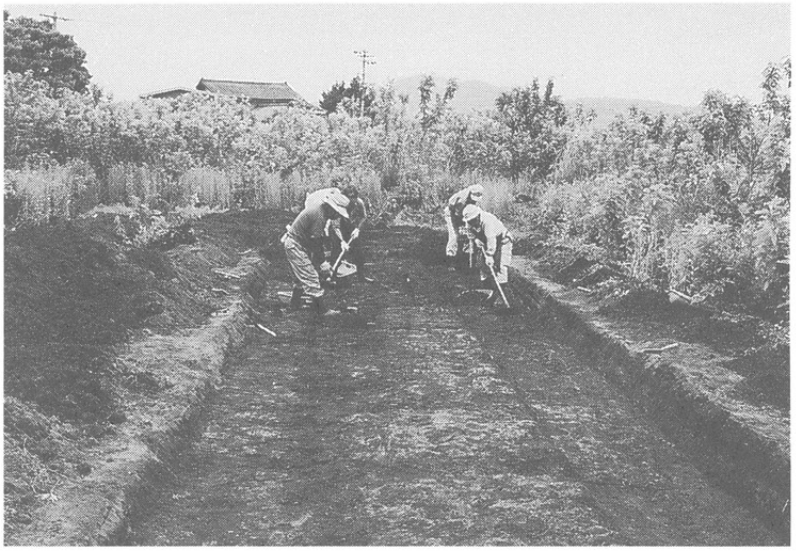
三遠南信自動車道関連
辻原遺跡（飯田市分）

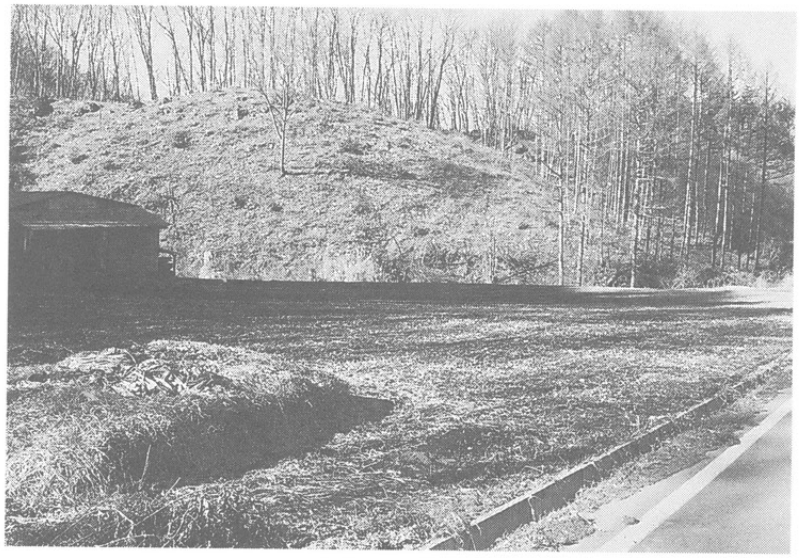


辻原遺跡（阿智村分）

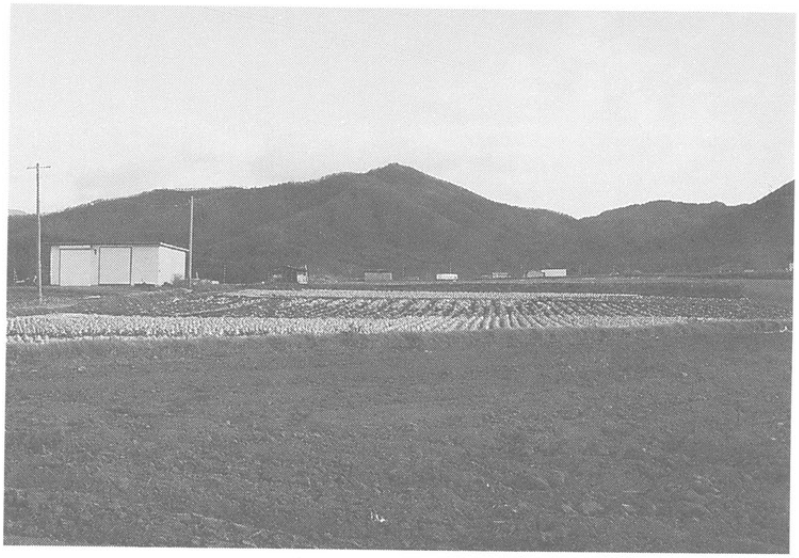


辻原遺跡
８トレンチ調査風景





中部横断自動車道関連
（仮）八千穂ＩＣ～
山梨県境遺跡踏査
小海町穴沢遺跡



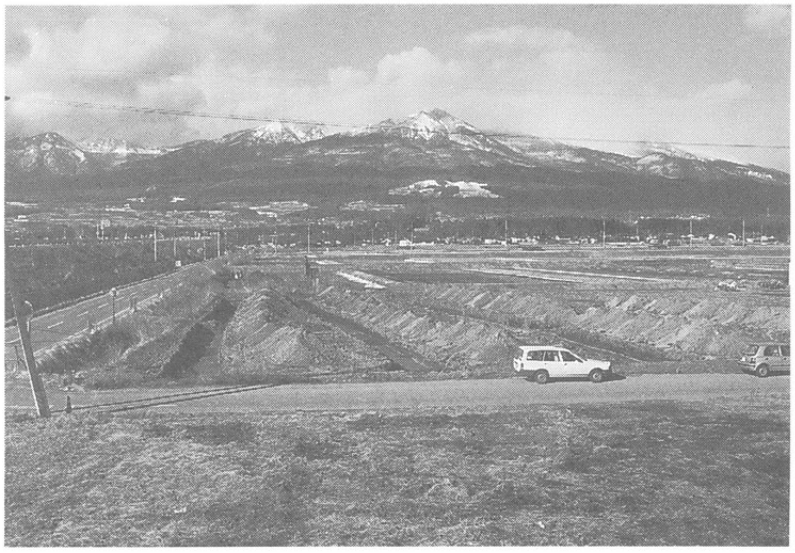
（仮）八千穂ＩＣ～
山梨県境遺跡踏査
川上村西の腰Ｂ遺跡

（仮）八千穂ＩＣ～
山梨県境遺跡踏査
南牧村夫婦石西遺跡

中部横断自動車道関連
平成１２年度調査
小諸市野火附遺跡近景

小諸市野火附遺跡
１トレンチ全景

小諸市野火附遺跡
１トレンチ調査風景



中部横断自動車道関連
平成１３年度調査
小諸市野火附遺跡
（上信越道東側）

小諸市野火附遺跡
（上信越道東側）

小諸市野火附遺跡
１トレンチ全景

小諸市野火附遺跡
２トレンチ全景

小諸市野火附遺跡
２トレンチ内遺構検出
（竪穴住居址）

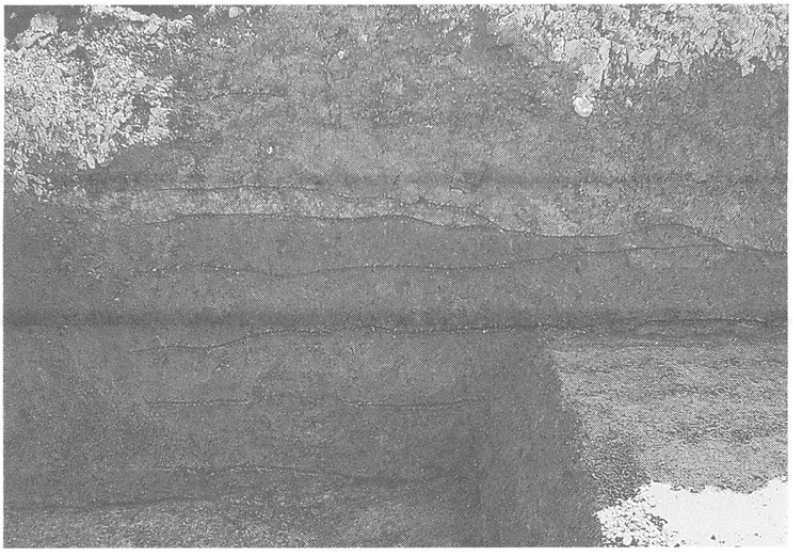
小諸市野火附遺跡
上信越道西側
トレンチ調査風景

大規模開発事業地内
中部横断道関連
佐久市北畑遺跡群近景

佐久市北畑遺跡群
１０トレンチ全景

佐久市北畑遺跡群
１０トレンチ断面

佐久市北畑遺跡群
３トレンチ断面



佐久市北畑遺跡群
１６トレンチ全景

佐久市北畑遺跡群
９トレンチ調査風景

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふりがな | だいきぼかいはつじぎょうちないいせき |
| 書名 | 大規模開発事業地内遺跡 |
| 副書名 | 遺跡詳細分布調査 |
| 巻次 | 3 |
| 著者名 | 長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課 |
| 編集機関 | 長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課 |
| 所在地 | 〒380－8570　長野県長野市大字南長野字幅下692－2　TEL　026－235－7441 |
| 発行年月日 | ２００３年3月３１日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| くだりまつ<br>下り松遺跡 | いいだしたけさ<br>飯田市竹佐 | 20205 | 35° 27′ 39″ | 137° 46′ 20″ | 01. 1. 11～<br>1. 12 | 詳細分布調査 |
| あかばはら<br>赤羽原遺跡 | いいだしやまもと<br>飯田市山本 | 20205 | 35° 27′ 36″ | 137° 45′ 37″ | 01. 1. 10～<br>1. 11 | |
| つじはら<br>辻原遺跡 | いいだしやまもと　あちむらかすが<br>飯田市山本・阿智村春日 | 20205<br>20407 | 35° 27′ 41″ | 137° 45′ 44″ | 01. 6. 4～<br>6. 4 | |
| のびつけ<br>野火附遺跡 | こもろしみかげしんでん<br>小諸市御影新田 | 20208 | 36° 17′ 46″ | 138° 29′ 1″ | 01. 3. 21～<br>3. 23<br>02. 2. 18～<br>2. 20 | |
| きたばた<br>北畑遺跡群 | さくしさくらい<br>佐久市桜井 | 20217 | 36° 14′ 18″ | 138° 26′ 43″ | 03. 3. 17～<br>3. 22 | |

| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 下り松遺跡 | 集落跡 | 縄文時代 | 竪穴住居址 | 縄文土器 | 遺跡の内容と範囲について確認 |
| 赤羽原遺跡 | 散布地 | 縄文時代 | なし | なし | |
| 辻原遺跡 | 散布地 | 縄文時代 | なし | なし | |
| 野火附遺跡 | 集落跡 | 古墳時代 | 竪穴住居址 | 土師器 | |
| 北畑遺跡群 | 包蔵地 | 弥生～平安時代 | 水田址 | 土師器・須恵器 | |


大規模開発事業地内遺跡

— 遺跡詳細分布調査　3 —

発行日　平成１５年3月３１日

編集者　長野県教育委員会　文化財・生涯学習課

発行者　長野県教育委員会　〒380－8570　長野市大字南長野字幅下692－2

印刷者　有限会社　長野プリントサービス